

令和4年度
日野市中央公民館の
運営の状況に関する評価書
(令和3年度事業)

市民の暮らしに寄り添いながら
市民のつながりの中に“学び”を生み出す

令和4年9月
日野市中央公民館

目 次

1. はじめに	1
2. 評価の目的	1
3. 公民館の現状	1
(1) 施設	1
(2) 貸室利用状況（令和3年度）	2
(3) 組織・職員	2
(4) 主な業務	2
4. 評価の実施方法	2
5. 評価の対象	2
6. 評価の結果	3
公民館運営審議会の総評	3
公民館の自己評価	4
7. 評価表	6

資料

I 公民館事業のあらまし	20
II 日野市中央公民館の運営状況の評価実施要綱	52
III 公民館運営審議会委員名簿（第28期）	53

参考

令和2年度、令和3年度講座等参加人数	54
--------------------	----

1 はじめに

平成 20 年 6 月に「社会教育法」が改正され、運営の状況に関する評価等として、「公民館は、当該公民館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき公民館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」とされました。また、これに先駆けて平成 15 年には、公民館の設置及び運営に関する基準において「公民館は、事業の水準の向上を図り、当該公民館の目的を達成するため、各年度の事業の状況について、公民館運営審議会等の協力を得つつ、自ら点検及び評価を行い、その結果を地域住民に対して公表するよう努めるものとする。」とされてきたところです。

これらを受け、公民館では平成 21 年 3 月 31 日に、「日野市中央公民館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、平成 21 年度から公民館の運営状況に関する評価を実施することにしました。

2 評価の目的

この評価は、公民館の運営の状況に関する情報を積極的に提供することにより、市民・利用者やその他の関係者との理解を深めるとともに、連携及び協力の推進に資するため、そして、効果的で市民・利用者に信頼される公民館事業を推進することを目的に行います。

この目的遂行のため、公民館は毎年 1 回、運営状況について評価を行い、その評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出するとともに、市民に公表することとします。

そして、評価結果に基づき公民館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

3 公民館の現状

(1) 施設

名 称	延べ床面積	開 館 日	所 在 地
中央公民館	704 m ²	昭和 41. 7. 1	日野本町 7-5-23
中央公民館高幡台分室	953 m ²	平成 16. 4. 21	程久保 550 教育センター内

(2) 貸室利用状況（令和3年度）

名 称	部屋の名称	年間利用者数
中央公民館	実習室、ホール、視聴覚室、小会議室、 講座室A・B、調理実習室、保育室	16,626人
中央公民館高幡台分室	講座室1～6、実習室、和室	14,143人

(3) 組織・職員 ※令和4年3月31日現在

2係（管理係・事業係）

正規職員 6人

再任用職員 2人

会計年度任用職員 2人

嘱託職員（コミュニティワーカー） 1人

(4) 主な業務

- ・公民館運営全般
- ・公民館活動（成人・高齢者・青少年対象の講座等）の企画運営
- ・公民館関係資料の収集、保存及び作成
- ・公民館施設の貸し出し管理等

4 評価の実施方法

評価を行うにあたっては、社会教育法で設置が謳われている公民館長の諮問機関である第28期、及び第29期公民館運営審議会委員の意見を伺いながら行いました。本評価は施策評価であるため、事業別の評価資料を作成した上で、それに基づき公民館運営審議会委員に課題・問題点と評価の提起をいただき、評価を総括いたしました。

5 評価の対象

評価の対象は、「令和3年度中央公民館基本方針」にある3つの基本目標から各施策9項目、及び重点施策5項目を対象といたしました。

(1) 基本方針

第2次日野市公民館基本構想・基本計画～市民の暮らしに寄り添いながら市民のつながりの中に「学び」を生み出す～目指す姿とし、基本計画に基づいて事業を展開する。公民館が市民にとって自由で民主的な学びの場として機能させるために諸条件の整備・充実をすすめる。

市民がまなびの主体であると同時に、まなびを作り広げる主体として、公民館事業に生き生きと参加・参画できるように、各種事業を企画・運営し、情報提供や相談業務などの充実を目指す。

(2) 基本目標と施策

① ～市民の日常生活に寄り添って～

豊かな暮らしをつくる「学び」を生み出す

- ・市民の暮らしに寄り添った学びの循環づくり
- ・「学び、学びあい」による生きがいつくり

② ～誰一人取り残さずに～

「学び」に集う人たちを地域や社会につなぐ

- ・地域をステージに、自ら考え、ともに行動する学びを実現する
- ・地域の社会的資源を生かし、学びを通して暮らしの課題解決を支援する
- ・暮らしと地域に結びついた安全安心な社会をつくる

③ ～まちの未来に向かって～

世代をこえて新たにつながる「学び」を創り出す

- ・子どもから大人まで切れ目のない学びを創造する
- ・平和な暮らしと社会を支える意識を育み、未来につなぐ
- ・さまざまな地域資源や学習の機会・場の情報共有を充実させる
- ・まちの自然・歴史・文化に親しみ、多世代間で知恵を交流する

(3) 重点施策

- ① 第2次公民館基本構想・基本計画の推進
- ② 市民のつながりの中に、対話的、自律的、体験的な学びの循環を創り出す
- ③ 公民館未利用者へのアプローチを図る
- ④ 市民のアフターコロナにおいての新たな形でつながり、学びあいを支える事業の展開
- ⑤ 多摩市との広域連携事業「たま学びテラス事業」の展開

6 評価の結果

《公民館運営審議会からの総評》

3つの基本目標と9つの施策、及び重点事業5項目について、公民館運営審議会各委員からの意見を、各「評価表」にまとめた。

コロナ禍においてオンラインを用いた事業の実施が進められた点は、時代の状況に即応したものであり、公民館の有する柔軟で高度な対応力であると認められ

る。そして、会場参加型とオンライン型を併用するなど、参加しやすい体制が整えられた点は、公民館として市民に寄り添おうとする姿勢が現れている。さらにコロナ禍であっても、講座をきっかけに新たなサークルが誕生するなど、公民館の「学び」から「結び」への一步を支えられたことは高く評価できる。

今後は、コロナが収束したときに公民館がオンラインをどのように位置づけて活用していくかについて、具体的な事業を開発していく創造力が求められる。

現状では生涯にわたる学びを支えるという視点でタテの切れ目を作らないことが強く意識されているが、今後は、コロナ禍を経て多様な生活スタイルや価値観が一層広がっていく中で、市民どうしの中にヨコの切れ目が生じないよう、つながりを結んでいくことを意識した事業の展開を推進することによって、公民館の新規利用者の開拓につながる可能性があると思われる。

また、ポストコロナ社会に向けた公民館のテーマとして、市民同士のつながりづくりを重視し、学びの循環を個人の中で留めず、その循環が渦となって仲間を巻き込んでいくことを、各事業の中で意識することも心掛けてもらいたい。

困難ではあるが、創意工夫で継続していただきたい。『継続は力なり』と考える。

そのほか、講座の実施について、公民館で学んだ成果を社会に還元していく視野をもった展開に期待する。市民が講座に参加した後、どのように社会とのかかわりを豊かにしていけるかを展望することが重要であると考え。個人的な体験から、講座に集まった参加者が同じ体験を共有することの意義を感じられるような仕掛けや働きかけを期待する。

令和3年度の主な取り組み事例については以下のとおりである。

- 高幡台団地での出張公民「観」事業など、地域をステージとして公民館と、その利用者が地域や社会に繰り出す動きがみられた。
- 養蚕に関するプロジェクトが展開された。歴史と現在をつなぐ視点で事業が進められているが、社会的資源を既に「あるもの」として活用する方法に留まらず、公民館事業を通して「ともにつくるもの」として創造する方策を検討し、新たなプロジェクトの発足に期待する。
- コロナ禍において、さまざまな行動制限が求められ、人権意識が揺らいだ時期だからこそ、憲法そして平和に関する学習がより重要になっている。憲法に関する学習は公民館事業として本質的なものである。絵本などを入り口にするなど、憲法の学びを身近なものにする工夫がみられた。平和事業は、戦争体験者が少なくなるなかでSDGsの観点を加えて実施されたことは評価できる。

《公民館の自己評価》

令和3年度中央公民館事業は、施策9項目及び重点施策5項目を踏まえ、事業数として84事業を展開した。

公民館主催事業の参加人数は延べ8,176人、中央公民館施設利用者数延べ

16,626人、高幡台分室施設利用者延べ14,143人となり、年間で延べ38,922人が公民館事業に関わったという結果となった。コロナ禍による臨時休館、公民館主催事業にいたっては中止を余儀なくされる事もあったが、昨年度との比較において125.3%の実績数値となった。

また、令和3年度は、新たな取り組みにもチャレンジした。はじめに「たま学びテラス構築広域連携事業」である。日野市と多摩市が協働し、生涯学習支援を目的とした学習環境「たま学びテラス」の構築を目指す広域連携事業である。令和3年度から5年度までの3カ年で、両市公民館のICT環境の整備や大学連携等のつながりを強化し、コロナ禍に負けない学びの保障を行う。学びのフィールドを多摩地域に拡大することで、市民の学習意欲向上、より豊かな暮らしを実現するものである。

続いて、「シニアICT支援事業」である。令和3年度より高齢福祉課・中央公民館・地域協働課の3課が連携し、取り組んでいる高齢者のデジタル格差解消を目的とした事業である。中央公民館では、高齢者デジタル活用支援の「学び」の部分を担当する「スマートフォン講座等運営事業」を実施している。内容は、高齢者がスマートフォンの基本操作を学ぶ「スマートフォン使い方講座」と、高齢者にスマートフォンの基本操作等を教えることができる、市民講師を養成する「スマホお助け隊養成講座」などになる。

さらに、『出張公民「観」in高幡台団地』では市長部局と連携し、公民館のサークル活動を市民に知っていただく目的で、高幡台分室で活動されている様々なサークルのうち、陶芸、絵画、尺八、鉄道模型、日野の歴史サークルの作品展示や音楽系サークルによるステージ披露などの活動内容の紹介等を行い、丘陵地の高齢化といった社会・地域課題の解決に取り組むことができた。

コロナ禍に対応するため、ICTを活用した遠隔学習と対面学習を併用して提供できる「新しい公民館」運営が可能な体制となったことは大きな成果と感じている。また、帝京大学・明星大学と連携し、若い世代が公民館事業に参加する仕組みづくりや、明治安田生命保険会社・京王電鉄株式会社との協働等、多様な主体と連携できたことも大きな成果と言える。

7 評価表

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表		
事業項目	基本目標（１） 市民の暮らしに寄り添いながら市民のつながりの中に学びを生み出す	
事業の概要		
1【施策】 市民の暮らしに寄り添った学びの循環づくり	経費	【謝 礼】109,000 円 【委託料】100,000 円
【課題】 ○デジタル格差の状況にある人でもきちんと学ぶことができるような学びの条件整備・環境をサポートする。	延べ 参加 人数	8 事業：425 人 1 委託事業：312 人
事業の成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の公民館各事業にSDGsとの紐付けを行った。事業を企画する際、市民一人ひとりに何を伝えたいのか当該事業の目的を明確にする事で、市民の実生活に寄り添っていく、「新しい公民館」としての学びを提供する事ができた。 ・「暮らしに潤いを お花を生けよう」講座は、コロナ禍で開催自体が危ぶまれたが、自由な発想を大切にする講師の指導により、和気あいあいとした雰囲気が保てた。講座終了後には、サークル化が実現した。 ・「O k y u uワークショップ」講座は、コロナ禍において、市民の暮らしにしっかりと寄り添いながら、家庭でも楽しく学ぶ工夫ができた。 ・ひの市民大学明星大学心理学部オンライン講座は、多摩、日野の各市広報や、八王子市リカレント教育支援アプリを利用して募集し、延べ300人を超える聴講だった。 		
公民館運営審議会の意見		
<p>公民館事業にSDGsの視点を入れた事は評価する。今後の推進を期待する。</p> <p>コロナ対策を施しながらの開催やオンラインでの開催が多く進められた。また、コロナ禍で講座終了後にサークル化した事業については、学びとつながりが一体となった、公民館らしい展開である。また、公民館から地域へのアウトリーチ事業が一層求められている状況が窺える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「浅川こどもビジネススクール」は、投資、運用について、学校のカリキュラムに取り入れられていく事からも関連講座の継続を望むとともに、親子参加型なども検討してはどうか。 ・「たま学びテラス」という新たな多摩市の公民館との広域連携はとても良い取り組みである。継続することで新たな学びを発見できると考える。 ・「高齢者向けスマホ教室」はとても良い取り組みである。定期開催にして希望する人がすべて受けられるようになると思う。また、パッシブな講座からアクティブなものへの変革を提案したい。学びながらコミュニケーションができる工夫を検討してはどうか。 ・「おとなの手作り絵本講座」、「O k y u uワークショップ」事業は、基本目標を具体的に推進できたと評価する。 <p>全体を通して魅力的な講座が増えた。今後、健康意識の高まりに加え、学びを通して人と人との結びを支えていくことを継続してほしい。</p>		
事業の課題と改善策		
<p>アウトリーチ事業の一層の充実が求められている昨今において、他機関との連携の更なる向上を意識する。</p> <p>広域での連携のほか、狭域（自治会単位や個人単位）での連携を模索するなど、より市民の暮らしに寄り添った総合的なデザインとマネジメントを模索していく。</p> <p>また、市民の要望や関心に沿った「市民の思い」を形にし、テーマごとの講座を検討する。</p>		

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表		
事業項目	基本目標（１） 市民の暮らしに寄り添いながら市民のつながりの中に学びを生み出す	
事業の概要		
2【施策】 「学び、学びあい」による生きがづくり	経費	【謝 礼】235,500 円
【課題】 ○職員は地域のコーディネーターとして、市民同士をつなげサークル化させる手法について、公民館の利用者から助言や協力を得るなどの工夫をしながら明確化して取り組む。	延べ 参加 人数	12 事業：254 人
事業の成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館まつり、高幡台分室まつり、ひのアートフェスティバルを統合して開催するために、各役員会や実行委員会等において、複数回、説明会や協議会を設けたが、新型コロナウイルス感染拡大などの影響により、延期や中止を余儀なくされた。 ・「オンリーアート」は講師を要しない講座である。参加者自身が身近な動植物や自然にある物に関心を抱いてもらい、それら材料を見て、触れて、感じたままを形にしていっていった。 ・コロナ禍に於いて外出制限が長引く中、浅川を守る活動を行う「多摩川漁業協同組合」を講師に迎えた「日野で漁師『浅川で副業！？アユ釣りを学ぶ』」は浅川水系の自然にも関心を持ってもらう事ができた。 		
公民館運営審議会の意見		
<p>体験型が多く、学びあう温もりを感じられ、公民館の使命を充分生かしている事業と言え、「学び」を踏まえて「学びあい」を生み出していくような工夫を期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほっと手作りママ時間」、「ゆるゆる手作りの会」、「こむこむ」などの事業は、公民館だけでなく他施設での開催も視野に入れるべきである。コロナ禍により家で過ごす時間が増えている今、公民館利用者を増やす機会として、これらの事業展開はとても良い発想である。子育て中の母親はもちろん、少し手が離れてゆとりができた母親達を対象とした講座が増えると良いし、更なるつながりづくりを展開して、子どもだけでなく大人の居場所づくりの仕組みを充実されることを期待する。 ・「分室の和室修繕」は、職員と利用者の交流から出来上がる講座として、公民館ならではの温かい魅力が感じられる内容。この様な講座を開催するに至った経緯などを発信していく事により、公民館の役割・在り方の一部を市民に周知できるのではと考える。 		
事業の課題と改善策		
<p>公民館利用サークルが他機関のイベントへ参加した時などは、参加の動機を聞き取っていく。その中で得た情報を検証し、公民館業務へ反映するとともに、サークルへのアドバイス等に活用していく。</p> <p>また、報告書には、単発事業か継続事業かを表記し、継続事業については、継続回数（年数）、成果等の寸評を追記し、年度ごとの変化の検証を行っていく。</p>		

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表		
事業項目	基本目標（２） 「学び」に集う人たちを地域や社会につなぐ	
事業の概要		
1【施策】 地域をステージに自ら考え、ともに行動する学びを実現する	経費	【謝 礼】 548,000 円 【委託料】 1,613,328 円
【課題】 ○市内地区センターの活用や、学校への出張を行い地域と学校との交流を活性化させていく。	延べ参加人数	12 事業：796 人 2 委託事業：815 人
事業の成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館まつりの一部中止や、ひのアートフェスティバルの中止を受け、イベント開催を望む声が増している中、高幡台分室を市民に知ってもらう事を目的として、高幡台分室の隣にある巨大団地群の一部広場を利用して、出張公民「観」in 高幡台団地を開催した。事業名の「観」は、公民館登録サークルの日ごろの活動風景を未利用者に観てもらいたいとの思いからネーミングしたものである。当事業は、市関係各課や、自治会、まちづくり協議会とも連携し、久方ぶりの盛大なイベントとなった。 ・市第六小学校との連携事業として「星空を学ぼう 月と星のおはなし」を開催した。当事業は学校の授業の一環として公民館が第六小学校に赴いた。対象となった4年生は履修内容と重なり、6年生は移動教室を間近に控え野外観望の可能性があるので開催時期がタイムリーであった。また児童への意見聴取で「公民館を知っている？」の設問では、ほぼ全員が「知らない」と回答され、地域や学校に出向いていくことの必要性を感じた。 		
公民館運営審議会の意見		
<p>市民講師による講座を様々な地域で行うことができ、且つ参加者の満足度も高い内容が多い様に見受けられる。新たに加わったLINEでの募集は効果的で、公民館に馴染みの無い地域への周知が期待できる。令和3年度は他国の文化に親しむ講座が少ない印象である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、外出機会が減るなか、自宅からできる「おうち de ダンス」は、とても良い取り組みである。 ・おもちゃドクター養成講座は地域や市民への貢献度が非常に高いと捉えられる。公民館運営審議委員になって初めて知ったが、さらに認知されても良いと考える。 ・アンケートから、公民館を知らなかった市民が参加する事例が散見できた。これは、今後、公民館が「学びの場」として、少しずつ認知度が高まって行く現れであると期待できる。今後、毎年度、初参加数の実績をデータ化することを検討してほしい。 		
事業の課題と改善策		
<p>地域をステージに、公民館や利用者が、地域や社会に繰り出し始めている中で、地域市民への市公式HPや、公式LINEなどを活用し更なる発信力の強化に努めていく。</p> <p>また、新たな「つながりづくり」のために、主催事業の内、長期間にわたる体験事業の開催などを検討、企画し、公民館事業で得た技能や知識などの成果を、参加者が社会に還元していく視野をもった展開を検討していく。</p>		

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表		
事業項目	基本目標（２） 「学び」に集う人たちを地域や社会につなぐ	
事業の概要		
2【施策】 地域や社会的資源を生かし、学びを通して暮らしの課題解決の支援をする	経費	【謝 礼】 75,000 円 【委託料】 400,000 円
【課題】 ○講座等の企画の中で、つながりができる仕組みなどを真剣に検討し実現していく。	延べ 参加 人数	4 事業 : 137 人 1 委託事業 2, 112 人
事業の成果		
<p>市内に関係のある多くの方に、市の個性や市らしさ、歴史や産業など、あらゆる市の財産を紹介できるような仕組みを検討しながら実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本来の自分を発見しよう 価値観ばば抜き」は、カードゲームを通して、楽しみながら自身の価値観ワード（カード）に触れ、自身の価値観に向き合う貴重な体験ができた。 ・「日本語教室」は委託事業として、地域の外国人など向けに、生活に困らない程度の日本語を習得してもらうための事業であるが、コロナ禍により対面とオンライン型式を並行実施するなど、生活に直結する事業なだけに、待ったなしの方向けに相当な工夫を凝らした。 		
公民館運営審議会の意見		
<p>日野の自然を通じた体験講座、日野発祥のスポーツハンドロウルなど地域に根差した講座が充実していた。スポーツ体験は公民館講座では珍しい印象だが、今後も是非企画してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「蚕でつなぐプロジェクト」は地域の社会的資源のうち、自然や歴史の資源を生かした学びの機会・場の創造に関する事業として、養蚕に関するプロジェクトが展開された。歴史と現在をつなぐ視点で事業が進められているが、社会的資源を既に「あるもの」として活用する方法に留まらず、公民館事業を通して「ともにつくるもの」として創造する方策を検討し、新たなプロジェクトの発足に期待する。将来、日野市としての産業品目にする夢につなげてはどうか。 ・「ママのための自由時間」は、様々な情報を交換できることや、子どもにも優しくできて日頃のストレスが少しでも緩和できる仕組みとして是非多くの方に情報発信をお願いする。 		
事業の課題と改善策		
<p>日野らしい社会教育として、地域の社会的資源を生（活）かし、『学び』を通して『暮らし』の課題解決の支援を模索していく。公民館がイベント屋にならないよう、講座の企画立案の際は、つながりができる仕組みを検討し、それを実現に結びつけていく。</p>		

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表			
事業項目	基本目標（２） 「学び」に集う人たちを地域や社会につなぐ		
	事業の概要		
3【施策】 暮らしと地域に結びついた安全安心な社会をつくる	経費	【謝 礼】34,000 円	
【課題】 ○防災講座は住民が我が事と捉えられるように、意識的・積極的に事業に厚みを加えていく。	延べ 参加 人数	2 事業：47 人	
事業の成果			
<p>令和元年に発生した台風19号は各地で甚大な被害をもたらした。日野市においても例外ではなく、市では避難勧告に続き、避難指示も発令され、避難所17箇所を開設し、避難者は最大8,600人となった。市内には多摩川、浅川の2大河川、また浅川以南では丘陵地が横たわっており、水害や土砂災害が危惧されている。コロナ禍に於ける避難所運営も対応が厳しいと予想されることから、災害時の「自助・共助」は地域住民自身の問題であることを常に認識する必要がある。</p>			
公民館運営審議会の意見			
<p>「気象災害から身を守るために～（防災講座）」は実にタイムリーな企画・実践と言える。防災・災害・詐欺犯罪などから身を守るための講座や、その他の自然災害、地震災害についても積極的かつ継続的に講座を拡充して、回数も増やしてはいかがかと考える。</p> <p>また、保幼小中高（学校教育）とのさらなる連携、一貫した内容を期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野の自然環境を考え、突発的な豪雨による河川や用水の氾濫、それに伴う冠水など、災害という観点から対応の仕方を学ぶことは全世代が必要である。大人から子どもまで多世代で一緒に参加し取り組む内容の講座を企画してほしい。 ・「親子で楽しむ天気講座」も素敵な企画・実践であると高く評価する。 			
事業の課題と改善策			
<p>身近な地域での防災を考えるうえでは、自治会や小学校区等を単位とした事業の展開も併せて必要である。さらに、安心安全は自然災害に限られた事象ではないことから、犯罪防止や、交通安全など、より広い視野で専門機関と連携した取り組みを模索していく。</p>			

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表		
事業項目	基本目標（3） 世代をこえて新たにつながる「学び」を創り出す	
事業の概要		
1【施策】 子どもから大人まで切れ目のない学びを創造する	経費	【謝礼】 666,000 円 【委託料】 2,200,000 円
【課題】 ○コーディネート、ファシリテートも公民館の役割である。年長世代が下に教えるだけでなく、若い世代が高齢者に教える双方向性の関係を模索し、世代を超えた「学び」の在り方を探っていく。	延べ参加人数	24 事業：1,327 人 1 委託事業：867 人
事業の成果		
<p>様々な方向からアプローチし、多くの事業を展開した。各事業の今後の課題を明確化するとともに、あらゆる点を線に結ぶ工夫を行い、切れ目のない学びを創造した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シニア ICT 事業」は、デジタル社会の移行により、高齢者のデジタル格差の課題に対して、市各課と連携して、公民館としては当事業を開催する事ができた。 ・「子どものための居場所づくり」講座は、公民館運営審議会との協働により、市内各地域で「子どもの居場所」運営を行っている方々と連携して、居場所づくりのノウハウを学ぶ機会とした。 ・「マインドフルネス入門」講座は、精神安定や認知症予防など、様々な生活シーンで役立てることを目指した。アンケートから次年度以降の開催要望も多かった。 		
公民館運営審議会の意見		
<p>公民館活動の実践的な展開として、幅広い取り組みが行われた。各事業の『評価と今後の課題』を次年度以降に継続・発展させていくこと（SDGs 的取組）が大切である。また、思春期、子育て、介護、老後など、ライフステージごとの学びを各事業でデザインしている。たま学びテラス構築広域連携事業では、帝京大学生島ゼミとの連携をはじめ、世代間交流を意識した事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出張公民『観』 in 高幡台団地」はコロナ禍だからこそ実施できた新しい取り組みとして優れた事業である。「新しい公民館」運営として他市からも注目されたと考える。 ・「マインドフルネス入門」は目新しい講座だが、コロナ禍でストレスを抱える人が多い現在、とても有意義な企画である。今後も定期開催してほしい。 ・「働いている人の話を聞く会」では、中学生が社会体験を行えない問題を上手く解決できた。若い世代と職業人の交流だけでなく、職業人同士の交流も同時にできるような内容となれば、また新たな広がりができていくのではないかと。 ・「居場所づくり」講座では、実際に活動している団体の現場を見学する機会を設け、この講座を経て無料塾運営を行う市民が誕生したことは素晴らしい成果である。 		
事業の課題と改善策		
<p>「公民館を知ってもらい、利用してもらおう。」には、公民館として、切れ目のない学びを提供し続けるとともに、職員は、市民や関係機関等とのコーディネーターとしての役割を認識し、市民一人ひとりの学びに寄り添って行く。</p>		

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表		
事業項目	基本目標（３） 世代をこえて新たにつながる「学び」を創り出す	
事業の概要		
2【施策】 平和な暮らしを支える意識を育み、未来につなぐ	経費	【謝 礼】44,000 円 【委託料】90,000 円
【課題】 ○憲法、平和、人権等の講座はその内容を工夫して、誰もが等しく参加できる機会を創出していく。	延べ 参加 人数	2 事業：16 人 1 委託事業：180 人
事業の成果		
<p>普段、私たちは憲法や人権、平和に守られていることを意識せずに生活しているが、いずれも欠く事のできない権利である。さらに、これらの事業は公民館の根幹として進めて行く事業である。今年度は絵本や、SDGs カードゲーム、朗読劇など、親しみやすく、かつ分かりやすい構成で企画し3事業を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平和事業は、大学生や高校生にも協力を頂き、次代を担う若者たちも参加しながら平和の尊さを学ぶ機会となった。 「絵本から読み解く憲法があなたへ託したメッセージ」講座では、人権が尊重される社会づくりを目指していく中、絵本から多文化共生社会や人権尊重の意識付け、憲法のエッセンスを学んだ。 国際的にパートナーシップ制度の策定に伴う検討が本格的に開始したのに合わせ、多様な性や、多様な生き方を認める人権尊重の意識付けと、理解の促進に向けて学んだ。 		
公民館運営審議会の意見		
<p>コロナ禍において、さまざまな行動制限が求められ、人権意識が揺らいだ時期だからこそ、憲法そして平和に関する学習がより重要になっている。平和事業は、戦争体験者が少なくなるなかでSDGsの観点を加えて実施された。</p> <p>また、これらの事業は、自主学習より、体験談等、他人の考え、経験を生の声で聞くことが聴講者にとって有意義なものと思われる。戦争には必ず終戦があり、その後歴史化され、忘れ去られるものとなる。第二次世界大戦後80年が近づき、戦争を実際に体験された方の生の声を聞くことができるのは、いかに貴重かを再認識してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館平和事業における、「春の平和展」は、大学や高校との連携を図り、かつ市関係4課との協働による開催という点で、とても良い取り組みだと考える。 		
事業の課題と改善策		
<p>パートナーシップ制度を通じた人権の学びから、社会の少数派の体験・意見を取り上げる講座を、今後も継続していく。</p> <p>また、憲法や平和に関する学習は公民館事業として本質的なものとして、多くの方、あらゆる世代の方が参加しやすい工夫を施し、憲法や平和の学びを、市民にとって身近なものにしていく。</p>		

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表			
事業項目	基本目標（3） 世代をこえて新たにつながる「学び」を創り出す		
	事業の概要		
3【施策】 さまざまな地域資源や学習の機会・場の情報共有を充実させる	経費	【謝 礼】24,000 円	
【課題】 ○他の機関とつながり、互いのポテンシャルを最大限に引き出し、有効活用できるための公民館になっていく。	延べ参加人数	1 事業：15 人	
事業の成果			
<ul style="list-style-type: none"> ・市生涯学習課との協働により、家庭教育講演会を開催した。日々、悩みながら子育てをする保護者に対し、子どもとの関わり方や、保護者としての心構えになどについて、丁寧な講話を頂いた。円滑な親子関係を築くためには、「親が幸せであることが子どもの幸せにつながる」を基本とすることを学ぶ機会となった。 また、開催中、公民館のPRも行い、公民館講座や各保育サークルの活動などを紹介した。 さらに、子育てに悩む保護者の拠り所としての公民館機能を伝える事ができた。 			
公民館運営審議会の意見			
<p>公民館が地域・市民に対して積極的に情報発信と情報収集を推進していく施策である。そのため、講座形式で何らかの事業を実施するよりも、公民館が展開するあらゆる事業をまずは串刺しにして、学びに関する情報を戦略的、総合的に発信、収集して取り組む必要がある。本施策については、公民館が年間を通じて日常的に実施する事業として立案する必要がある。とは言え、とても大切な事業推進であること、その具体的展開を高く評価する。「評価と今後の対応」に書きまとめられている事柄を一つ一つ噛みしめて来年度へと継続していただきたい。</p>			
事業の課題と改善策			
<p>他機関や、他の社会教育機関などとの連携により、得られる地域資源などを公民館の共有財産と捉え、職員同士が情報共有できる場づくりを工夫していく。</p> <p>また、日常的な業務や、打合せなど準備段階から取り組まれている事象を、事業報告書に盛り込んでいく。</p>			

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表		
事業項目	基本目標（３） 世代をこえて新たにつながる「学び」を創り出す	
事業の概要		
4【施策】 まちの自然・歴史・文化に親しみ、多世代間で知恵を交流する	経費	【謝 礼】131,000 円 【委託料】334,000 円
【課題】 ○日野の子どもたちや、若い世代があらゆる場面で知る機会に出会えるよう社会資源をもっと発掘し紹介していく。	延べ参加人数	13 事業：249 人 2 委託事業：624 人
事業の成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・「季節を楽しむ和の行事」は数年来連続して開催している。今年度は全5事業開催し、国に伝わる文化風習を中心に、日野の文化を継承していくことが出来た。 ・「東光寺大根」講座は、参加者からも非常に好評である。また、今年度は市都市農業振興課とも連携をし、江戸東京野菜の一つである市の特産品とし、認知度が高まっている。 ・「川崎街道今昔クエスト」は、まちクエストアプリを活用して、多摩市との連携事業として両市を横断している北野街道を軸に散策した。参加者は散策しながらクエストの設置、後日、一般市民が散策しても楽しめる企画であったが、コロナ禍により中止が相次いだ。しかし、メルマガを配信するなどの工夫により、参加者同士を次年度以降に繋ぎ止める事ができた。 ・「ひのっ子シェフコンテスト」は、市民実行委員会が企画運営を進めている委託事業である。今年度はコロナ禍により、料理コンテストは実施せず、調理法などをプレゼンテーションする形式を採用した。また、オンラインによる配信など例年とは開催手法を変更したが、職員のオンライン環境に対するスキルの向上によりスムーズな運営が行われた。 		
公民館運営審議会の意見		
<p>どの事業においても、参加者が「ほっとできる、心がほっこりとする」内容構成であることを高く評価する。「成人・高齢者事業」を中心として推進しながら、成人や高齢者の方々を小中高校生の学びと直接結ぶ（紡ぎあい、織り成しあう）活動構成も、今後は是非検討していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統文化である季節の行事は大切に伝えて頂きたい。その中で、親子で参加できる内容や日程も検討されてはどうか。更に、連続講座として市民が繰り返し一つの事業に参加するなかで、取り上げる地域資源の魅力を参加者間で共有していく時間が重要である。 ・多摩市との連携「たま学びテラス」事業として新たな企画を行い、多世代に向けて交流してほしい。例えば、川崎街道今昔クエスト（クイズ）はアプリを使った試みは目新しく、アプリを利用し、後日参加も可能な街の歴史散策講座は新しい試みで興味深い。 		
事業の課題と改善策		
<p>「田んぼの学校」のような親子で参加できる体験型事業は、運営や活動を担う後継者の育成が課題である。</p> <p>また、「季節を楽しむ和の行事」は、市内で伝承されている行事に興味を持たれる方も非常に多い。今後は地域に根差している方々に市内の伝統行事などの紹介も検討していく。当事業の更なる充実により、郷土愛を育み、地域とのつながり、地域への親しみが湧き、一人ひとりが地域の一員としてのアイデンティティが培われるような取り組みを行っていく。</p>		

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表	
事業項目	重点事業（１） 第２次公民館基本構想・基本計画の推進
事業の概要	
<p>令和２年度（計画初年度）から５年間の基本構想・基本計画に基づき、年度ごとのロードマップの中で事業を組み立て３つの基本目標を推進する。</p> <p>令和３年度は新型コロナウイルス禍に見舞われる中で、中央公民館、及び高幡台分室のWi-Fi環境の整備や職員のICTスキルアップを図り、市民の学びの保障に挑んだ。また、多様な主体との連携、ICT活用の推進に本格的に取り組み、「新しい公民館」の実現を目指した。</p>	
事業の成果	
<p>第２次公民館基本構想・基本計画に基づき、令和３年度は様々な新たな「つながりづくり」にチャレンジした。「たま学びテラス広域連携事業」では、多摩市の公民館との広域連携。さらに、「シニアICT支援事業」、『出張公民「観」in高幡台団地』では市長部局と連携し、高齢者のデジタル格差問題や丘陵地の高齢化といった社会・地域課題の解決に取り組むことができた。その中でコロナ禍に対応するため、ICTを活用した遠隔学習と対面学習を併用して提供できる「新しい公民館」運営が可能な体制となったことは大きな成果である。また、帝京大学・明星大学と連携し、若い世代が公民館事業に参加する仕組みづくりや、明治安田生命保険会社・京王電鉄株式会社との協働等、多様な主体と連携できたことも大きな成果と言える。</p>	
公民館運営審議会の意見	
<p>令和３年度の様々な『つながりづくりへのチャレンジとその学びの紡ぎあいの成果』を、是非とも令和４（2022）年度、そしてSDGsの８年後ゴールである２０３０年へと繋いでいてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに「つながりづくり」として「たま学びテラス」や「出張公民『観』in高幡台団地」などコロナ禍に対応するための「新しい公民館」運営は大学連携や企業との協働できたことでより良い成果を残したので今後も期待している。 ・遠隔学習と対面学習の併用による、「つながりづくり」が可能となったことは評価する。アナログを主体に、デジタルとの二本立てで、学びによるつながりをより強力に推進することを期待する。 	
事業の課題と改善策	
<p>基本構想・基本計画については５年計画の２年を終えたところであり、中間的な評価が必要である。それは施策の柱ごとの実施に留まるのではなく、基本構想・基本計画の全体としての進捗状況について自己評価・点検を行うことが必須であり、計画の理念や目標と現状の公民館を照らし合わせて、期間の後半における取り組みの進行に生かしていく。</p>	

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表	
事業項目	重点事業（２） 市民のつながりの中に、対話的、自律的、体験的な学びの循環を創り出す
事業の概要	
ひとりひとりが、自分の地域や社会のことに思いが向き、何か新しく行動をしてみようと思うキッカケづくりを行う。また、市民の主体的な学びを応援し、学んだことを誰かに伝えるという学びの循環を創出する。	
事業の成果	
コロナ禍が継続する中で、市内及び近隣大学との大学連携事業、多世代が交流する「田んぼの学校事業」、蚕糸の会日野、職員、参加者が一体となり実施した「蚕でつなぐプロジェクト」、また、夏休みに小学生を対象とした事業「夏休みわくわく学習術」などの子どもから大人まで参加者が主体的に体験できる事業を必要なコロナ感染対策を施し、「学びの循環」として継続することができた。	
公民館運営審議会の意見	
<p>コロナ禍でも大学連携事業など子どもから大人まで主体的に取り組むことができる自然体験を通じて「学びの循環」を継続してほしい。公民館での体験はとても貴重です。ぜひ継続して市民の期待に応えてほしい。</p> <p>さらに職員の支援もあり、講座からサークル化の希望や実現を望むケースが毎年一定数ある。今後も公民館からの支援を継続し、市民が自律的に学びを広げていき、市民自ら学びの循環を創り出すためのアプローチを続けてほしい。</p>	
事業の課題と改善策	
<p>サークル化が難しい子ども向け講座を、どの様な形で継続させ学びの循環に繋げていくかを工夫していく。</p> <p>昨今のデジタル化の急速な推進により、SNS、eスポーツ等、リモートでのつながりが容易になり、むしろ、このつながりがメインになると思われる。このような状況下において、高齢者グループと青少年グループとのつながりの連携強化を進めていく。</p>	

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表	
事業項目	重点事業（３） 公民館未利用者へのアプローチを図る
事業の概要	
<p>公民館の持続的な運営に欠かせぬ人と人とのつながりを大切に、サークル相互の情報共有や新メンバーを迎え入れる体制づくりを行うとともに、自治会など地縁団体に対して積極的に情報提供を行う。さらに、市内各施設での事業実施を拡充し、市内全域に公民館の学びを届ける。</p>	
事業の成果	
<p>課内に情報発信強化チームを設立し、SNSの活用等について検討を行いながら、市公式LINEやホームページ、中央公民館公式Twitterなど、SNSを用いた情報発信の改善を行った。</p> <p>また、公民館を地域の方々に、さらに知ってもらい、利用してもらおう目的から、公民館サークルや市長部局と連携し、サークルの活動紹介や、制作した作品の展示などを行う『出張公民「観」in 高幡台団地』を実施した。公民館が程久保地域に出向き、地域住民にアプローチを図ることで、公民館未利用者に周知できたことは大きな成果であった。</p>	
公民館運営審議会の意見	
<p>『出張公民「観」in 高幡台団地』の実践は、今後の公民館活動の充実と発展にとって大変意味深く、価値ある試みであったと高く評価する。ここからの成果と今後の課題を明確にして継続的な展開を期待する。</p> <p>また、市公式LINEでの情報発信は明らかな反響があったと思われる。なぜこの方法が良かったのか可能な範囲で分析し、新たな情報発信方法を模索してほしい。</p>	
事業の課題と改善策	
<p>SNSやホームページを用いての情報発信は行っていることは、あくまでも手段であり、その実施のみをもって未利用者に十分なアプローチができたとは言えない。SNSやホームページに対して市民から具体的にどの程度の反応があったのか、また、その情報をもとに新たな来館につながったか等、具体的な検証を行い、その検証に基づき、今後のSNSやホームページを具体的、かつ目的と時代に応じた活用手段を考えていく。</p>	

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表	
事業項目	重点事業（４） 市民のアフターコロナにおける新たな形でのつながり、学びあいを支える事業の展開
事業の概要	
公民館の持続的な運営に欠かせぬ人と人とのつながりを大切にしながらも、オンライン活用や、コロナに負けず健康で豊かに過ごすための工夫を取り入れた散策系、健康維持増進のための各種講座を積極的に行い、その過程において市民の学びとつながりを生みだして行く。	
事業の成果	
コロナ禍において、オンラインを活用した新しい形での「学び」について、職員の間で意見交換を行い、多くの事業を展開した。対面とオンラインを併用したハイブリット方式での「O k y u u（お灸）ワークショップ（コロナに負けないカラダづくり）」やZOOMで参加する「子育てクッキング講座」等、新たな形で取り組む「学び」を推進することができた。合わせて、各事業（講座）を周知する際に、SDGsの該当項目に紐づけをすることで、参加者の社会の持続可能性に対する意識を高めることができた。	
公民館運営審議会の意見	
<p>コロナ禍においてオンラインを用いた事業の実施が進められた点は、時代の状況に即応したものであり、公民館の有する柔軟で高度な対応力として評価できる。今後は、コロナが収束したときに公民館がオンラインをどのように位置づけて活用していくかについて、具体的な事業を開発していく創造力が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面とオンラインを併用したハイブリッド方式による「O k y u uワークショップ」や、ZOOM学習会形式による「子育てクッキング」など、今後の学びの工夫に積極的に活かしていける実践を高く評価する。また、SDGsとの関連を強く意識して取り組んでいることも注目したい。ただし、ハイブリッド方式とは言え、公民館での、学びあい、つながりは、対面が主体であって、デジタル化は単なる手段であるものとする。 ・SDGs未来都市に認定された市では、市民と共に進めるための一つとして、市民の日常生活に最も近い、公民館事業は有意義なものである。普遍的な見地であるSDGsに紐づいて取り組むことにより、新たなステージを見出す一つの選択肢ではないかと考える。継続的な推進を提案したい。特に、SDGsに紐づいた講座は、アクティブ・ラーニング（多世代同席を条件とする）を主体に推進することを提案したい。 	
事業の課題と改善策	
<p>オンラインを活用した新しい「学び」や対面とオンラインのハイブリット式は事業によっては有効だと考えられるため、より活用していく中で、現状に満足することなく、どの年齢層の人たちにも利用してもらえるように工夫していく。</p> <p>また、ソフト面では、解散したサークルを再度結び付けるなどのフォローの体制づくりや、コロナ禍で外出できず疎外感を抱いている方への支援策などを強化していく。</p>	

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表	
事業項目	重点事業（５） 多摩市との広域連携事業「たま学びテラス事業」の展開
事業の概要	
<p>多摩市と日野市が連携して、両公民館のＩＣＴ環境の充実や多摩地域の大学等の社会的資源を活用し、コロナ禍に負けない学びの保障を実現することで、多摩地域の市民の学習意欲を向上させ、豊かな暮らしを実現するために、広域的な生涯学習支援を行う学習環境「たま学びテラス」の構築を行う事業を実施する。</p>	
事業の成果	
<p>たま学びテラス事業を展開する中で、大きく３つの成果があげられる。一つ目は、２市の市民が各市の市民大学講座等にインターネットを活用して参加できる仕組みを構築することができた。二つ目は、両市の公民館のＩＣＴ機材を整備し、「動画づくり講座」を実施し、市民の情報発信力を強化することができた。三つ目は、近隣大学の学生との協働事業により多世代交流を実現できた。以上により、多摩市と連携することで、広域的な社会的資源を活用するなど、市民の暮らしを豊かにする事業を開始することができた。</p>	
公民館運営審議会の意見	
<p>多摩市との広域連携でより暮らしを豊かにする事業が開始されて、連携や、情報交換することは、事業の幅が広がると感られるので、今後も期待していくとともに、近隣の大学生との協働的な学びの展開や、川崎街道など両市を結ぶ資源を利用し、互いの歴史、生活様式の変化を学びあう取り組みは連携事業ならではの企画を今後、ますます活性化させていってほしいと考える。</p>	
事業の課題と改善策	
<p>多摩市との連携に基づく具体的な事業が実施できたことは令和３年度の評価として成果があったといえる。今後は、公民館が日野市と多摩市の地域や市民とどのような関わりを中長期的に構築していくかについて、具体的なビジョンを描いていかなければならない。事業完了時に多摩市との連携が切れないよう、事業終了後の展開と方向性を明確化していく。</p>	

公民館事業のあらまし

(「令和3年度社会教育のあらまし」からの抜粋)

1 公民館主催事業

公民館主催事業（講座・教室など）を事業分類ごとに紹介。

① 成人事業

ア. 季節を楽しむ和の行事 鯉のぼり編 ～端午の節供を楽しもう～

開催日	4月22日
会場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	端午の節供にまつわる行事や由来について枝川氏から学び、和紙を用いて鯉のぼりや兜を作った。公民館で活動する朗読サークル「にじの会」の今井氏が民話『くわすにようぼう』を朗読し、文学の中の日本の行事を鑑賞した。
講師	枝川 寿子、今井 潤子
参加人数	19人

イ. 新緑の季節 七生散策

開催日	4月23日・5月21日
会場	高幡台団地第二緑地、高幡山から鹿島台住宅上方面
開催回数	全2回
内容他	歩きながら身近な自然の中での生物や植物、地域の原風景に関心を抱くきっかけづくりを目的とする。
講師	白川 未来
参加 延べ人数	20人

ウ. さき織を知ろう！作ろう！自分だけのコースター作り講座

開催日	4月23日・7月9日・7月16日
会場	中央公民館
開催回数	全3回
内容他	使わなくなった布を使用し、新しい布を作り出す技術であるさき織を用いたコースター作り講座。廃布を使うことから、資源再利用の啓発講座ともなった。緊急事態宣言発出の関係により、日程を変更した。
講師	中村 由紀子
参加 延べ人数	26人

エ. ～暮らしに潤いを～お花を生けよう！

開催日	5月25日・6月8日・6月22日
会 場	中央公民館
開催回数	全3回
内容他	コロナ禍で家に閉じこもりがちな生活に、家に花がある生活を提案。前年度に開催された生け花講座で立ち消えになってしまったサークル化を目指し、参加者同士の交流を図った。
講 師	成松 和子
参加 延べ人数	27人

オ. Zoom講座 子育てクッキング♪

開催日	6月23日・7月7日・7月21日・8月4日
会 場	なし(オンライン開催)
開催回数	全4回
内容他	コロナ禍、家で子どもとの過ごし方を変えるきっかけづくりとなるよう、親子で楽しく作れる4種のメニュー（餃子、ケーキサレ、キッシュ、クッキー）の作り方を学んだ。後半は夏休みの期間だったので多くの方が親子で参加した。
講 師	櫻井 イエン
参加 延べ人数	34人

カ. 季節を楽しむ和の行事 七夕編 ～七夕飾りと書を楽しむ～

開催日	7月1日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	七夕にまつわる行事や由来、室礼について枝川氏から学び、和紙を用いて七夕飾りを作った。また、書道家の小熊氏の指導のもと、墨と筆で梶の葉に願い事を書く、昔の風習を体験した。
講 師	枝川 寿子、小熊 廣美
参加人数	18人

キ. おもちゃドクター養成講座

開催日	7月6日・7月7日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	市内で活躍されている日野市おもちゃドクターの方を講師に、ご家庭にある壊れたおもちゃを修理できるよう『おもちゃの修理に必要な知識』を学んだ。
講 師	下野 暁
参加 延べ人数	20人

ク. ほっと手作りママ時間

開催日	7月8日
会場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	公民館利用サークルからの要望を受け、コロナ禍で孤立してしまいやすくなっている育児中の方が手芸を通して一息つける居場所づくりの一環。
講師	ゆるゆる手作りの会
参加人数	1人

ケ. ～本来の自分を発見しよう～価値観ばば抜き

開催日	7月11日
会場	多摩平交流センター
開催回数	全1回
内容他	価値観ワードが書かれている60枚のカードを使った「価値観ばば抜き」を通して、楽しみながら自分の価値観に触れる講座。
講師	中村 智子
参加人数	11人

コ. ～心地よくなって健康的～エコ布ぞうりを作ろう！

開催日	7月17日
会場	中央福祉センター
開催回数	全1回
内容他	わらぞうり保存会の方を講師に、現在では手に入りにくい藁の代わりに、捨ててしまいがちな古布を利用した布ぞうりを作ることによって伝統技術を学んだ。エコとリサイクルについて考えるキッカケを作るとともに、創作する楽しさを味わった。
講師	高橋 さゆり
参加人数	12人

サ. デジタルの楽しさを学ぼう！

開催日	7月24日
会場	中央公民館・オンライン併用
開催回数	全1回
内容他	DX化が加速する中で、そもそもデジタルとはどういったものなのか、どのような楽しさがあるのかを学ぶ講座。講師は世界最高齢アプリ開発者を迎え、オンライン併用で実施した。
講師	若宮 正子
参加人数	55人

シ. 大切な自分を守りたい～本当は知らないスマートフォンとの付き合い方

開催日	9月5日
会場	中央公民館・オンライン併用

開催回数	全1回
内容他	デジタルタトゥーともいわれる子どものスマートフォン使用時のリスク回避方法を家族ぐるみで学ぶ。
講師	小川 真理絵
参加人数	4人

ス. ～いざという時に迷わない～親の介護、自分の老後

開催日	10月2日
会場	中央公民館・オンライン併用
開催回数	全1回
内容他	親の介護については考えたくない問題であるが、急に必要になり慌てがちである。前もって知識を得て、後悔することのないように専門家からお話を伺った。
講師	宮本 芳恵
参加人数	オンライン24人、会場参加19人 延べ43人

セ. ～心のデトックス～マインドフルネス講座

開催日	10月9日・11月13日・1月8日・2月12日
会場	Tree HALL
開催回数	全4回
内容他	マインドフルネスは、認知症予防やストレス軽減などの効果がある新しい瞑想法。心と体を整え、本来の自分を取り戻すことを目的として、マインドフルネスの理論と方法を学んだ。
講師	長谷川 洋介、本田 由美
参加延べ人数	106人

ソ. 季節を楽しむ和の行事 収穫編～秋の行事と朗読～

開催日	10月21日
会場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	秋の行事、十五夜、十三夜、重陽の節供について枝川氏から学び、和紙を用いて菊包みを作った。中央公民館で活動する朗読サークル「日野にじの会」の卜部氏が『秋の幻』豊島与志雄/著を朗読し、日本文学の中の秋を鑑賞した。
講師	枝川 寿子、卜部 千恵子
参加人数	20人

タ. ママのための自分時間～子育てからちょっと離れて、ゆっくり・じっくり自分を見つめてみませんか～

開催日	10月22日
会場	中央公民館
開催回数	全1回

内容他	講師ママがカラーセラピー、アロマ等のブースを出店、参加者は興味のあるものに参加し、自分の時間を楽しんだ。
講師	こどもへのまなごしママ会、サークルどーなつ
参加人数	9人

チ. ～気象災害から身を守るために～気象予報士による防災講座

開催日	10月23日
会場	中央公民館・オンライン併用
開催回数	全1回
内容他	気象庁との共同事業で「局地的大雨」に関する講座を行っている日本気象予報士会の方に気象の基本的な知識から防災知識までをわかりやすく解説してもらい、近年多発する気象災害から身を守る術を学んだ。
講師	島田 賀子
参加人数	オンライン13人、会場参加19人 延べ32人

ツ. 日野宿ひな巡り～長寿を願うつるし雛～

開催日	11月4日・11月11日・11月18日・11月25日
会場	中央公民館
開催回数	全4回
内容他	つるし雛のモチーフ3種、「鶴」、「亀」、「扇」の作り方を学んだ。講座修了後は日野宿界隈で催される「日野宿ひな巡り」に出展し、公民館サークルや市民の方と一緒に公民館に展示した。
講師	大竹 裕子、布遊びひろの会
参加延べ人数	48人

テ. おとなの手作り絵本講座

開催日	11月19日・12月3日
会場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	おとなを対象にした手作り絵本講座。本の構造、仕組みの説明を受け、それぞれのパーツを確認しながら絵本作りをした。毎年恒例の市内児童館主催の『手づくり絵本展』にも出展。
講師	小島 緋奈子
参加延べ人数	26人

ト. 和室をリフォーム～みんなの部屋だから～

開催日	12月2日・12月3日
会場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全2回

内容他	分室の「和室」で活動されているサークルから「障子の劣化が激しく、どうかしてほしい。」との提案を受けて企画した。主に和室を使用するサークルに声を掛け、みんなの部屋を大切に使う意識付けと、共同作業をすることによるつながり創り、より良い和室の活用に繋げることを目的として実施した。
講師	なし
参加 延べ人数	15人

ナ. 東光寺大根でたくあん作り

開催日	12月4日・12月11日・1月8日
会場	福島農園、中央公民館
開催回数	全3回
内容他	日野の特産である東光寺大根は、今では市内で3軒の農家に栽培されているのみで、その存在を知らない市民も多い。東光寺大根のことを知ってもらうとともに、昔ながらの素朴な味のたくあん作りにも挑戦した。
講師	福島 幹男
参加 延べ人数	57人

ニ. 中央公民館×田んぼの学校 お正月のお飾り、わら細工づくり講座

開催日	12月11日
会場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	田んぼの学校を活用し、今年育成した「稲」の「わら」を用いて田んぼの学校役員を講師に招き、昔から伝わるお正月のお飾り、しめ縄など伝統文化を伝えた。
講師	田んぼの学校役員 尾形 重男 ほか
参加人数	15人

ヌ. 中央公民館×田んぼの学校 お正月門松づくり講座

開催日	12月18日
会場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	田んぼの学校を活用し、今年育成した「稲」の「わら」を用いて田んぼの学校役員と地域の方を講師に招き、昔から伝わるお正月の門松づくりを通して伝統文化を伝えた。
講師	田んぼの学校役員 尾形 重男 ほか
参加人数	15人

ネ. 公民館×生涯学習課家庭教育講演会

～親が幸せであることが子どもの幸せにつながる

開催日	12月18日
-----	--------

会 場	中央福祉センター、中央公民館高幡台分室
開催回数	全1回
内容他	子育てを行う中での親の関わり方、心構えについて学び円滑な親子関係を築く。
講師	高橋 大輔、小幡 七海
参加人数	15人

ノ. 季節を楽しむ和の行事 お正月編～お正月行事と餅花づくり～

開催日	12月23日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	お正月行事の意味や由来（門松、お飾り、鏡餅など）について学んだ。また、柳の木に紅白のお餅をつけた「餅花」、和紙と水引で「箸袋」を作り、お正月を迎える準備をした。
講 師	枝川 寿子
参加 延べ人数	19人

ハ. オンリーアート工作

開催日	12月25日・1月15日・2月26日・3月26日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全4回
内容他	主に高幡台地域の方を対象に、地域の身近な自然を題材に自分だけのアート（工作）を作る。普段気にも留めないような、木の枝や枯葉、木の実、小石などを拾い、観察し、そこから自分の創造力を働かせオンリーワンの作品にする。自地域や、足元に落ちている材料を拾うことにより、身近な自然に親しみながら環境などへの興味を抱いてもらう。そんな事を目的とした居場所づくり、仲間づくり講座。
講 師	なし
参加 延べ人数	24人

ヒ. 省エネの基本は家庭から「家庭でできる省エネ講座」

開催日	1月15日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	地球温暖化の説明、家庭家電の省エネ設定の仕方など、「省エネの基本は家庭から」を基本に市民が関心を持ちやすい内容で地球環境のことを学んだ。
講 師	”東京都地球温暖化防止活動センター(クールネット東京) エコアドバイザー 北間 澄代
参加人数	21人

フ. OKyuuワークショップ～コロナに負けないカラダづくり～

開催日	1月19日・2月2日
会場	中央公民館・オンライン併用
開催回数	全2回
内容他	誰でも簡単にでき、身体の免疫力アップに効果がある「お灸」と身体の緊張を緩める「操体法」を学び健康増進を図る。
講師	西畑 ありさ
参加 延べ人数	12人

へ. こんにちは！サイエンス～鳥類編～

開催日	1月22日・2月5日
会場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	①「アホウドリ復活への挑戦～アホウドリの保全と希少種の未来について～」 絶滅したと考えられていた特別天然記念物アホウドリの保全活動に関わった講師にお話を伺った。 ① 「浅川で見られる鳥たち～いつ、どこで、何が～」 私たちの周りで見られる野鳥の紹介と、観察のコツを学んだ。
講師	①佐藤 文男 ②粕谷 和夫
参加 延べ人数	①15人 ②21人 延べ36名

ホ. 季節を楽しむ和の行事 豆まき編 ～節分行事と朗読～

開催日	1月27日
会場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	節分行事の意味や由来について枝川氏から学んだ。柗鯛（ひいらぎいわし）の魔除けを作り、室礼（飾りつけ）を体験した。公民館で活動する朗読サークル「日野にじの会」の大久保氏が絵本『ないたあかおに』を朗読をし、みんなで楽しんだ。
講師	枝川 寿子、大久保 潤子
参加人数	18人

マ. 多世代交流「働いている人の話を聞く会」（日野第一中学校キャリア学習）

開催日	1月28日
会場	日野第一中学校
開催回数	全1回
内容他	様々な職業人と中学生が直接交流し、将来について考えてもらうキャリア学習。
講師	日野市青年会議所
参加人数	231人

ミ. オンライン講座 ゴッホ・ルノワール・モネ ～画家の人生を辿る旅へ～

開催日	2月17日、3月3日、3月17日
会場	なし（オンライン開催）
開催回数	全3回
内容他	オンライン（Zoom）で開催。各回、一人の画家について、画家の人生を辿りながら絵画の解説を聴く講座。1回目ゴッホ、2回目ルノワール、3回目モネ。
講師	ヴィオ・優美
参加 延べ人数	109人

ム. アートで心をほぐしませんか

開催日	2月20日
会場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	演劇の呼吸法とアートワークにより、心身ともにリラックスさせるワークショップ。
講師	西畑ありさ
参加人数	6人

メ. オンライン 思春期講座 ～子どもとの距離のとり方～

開催日	3月1日、3月8日、3月15日
会場	なし（オンライン開催）
開催回数	全3回
内容他	コロナ感染拡大のためオンライン（Zoom）講座に変更。親子の距離感を臨機応変に取ることを目的に体験型ワークショップを実施。 ①思春期とは～発達心理学の観点から～ ②親や家族の距離感 ③親に出来ること（感情の基礎知識）
講師	初田 美紀子
参加 延べ人数	21人

モ. 出張公民「観」in高幡台団地 サンバ隊演奏講座

開催日	3月19日
会場	高幡台団地7 3号棟跡地/広場
開催回数	全1回
内容他	中央公民館高幡台分室で活動しているサークルを中心に、高幡台地区の方にもっと公民館を知ってもらいたい、利用してもらいたいという願いから公民館登録サークルが地域に出向いて活動の成果を発表。その一役を担いアートフェスティバルの参加常連団体から「アソボッサ・アトゥン・アトゥン」というサンバ隊を招いてサンバの演奏を地域の方に聞いていただいた。
講師	高橋 勉
参加人数	30人

ヤ. オンラインおうちdeダンス

開催日	3月26日
会場	オンライン開催
開催回数	全1回
内容他	NPOあるく・自律を目指す会に協力をいただき、オンライン配信によるダンス教室を開催。
講師	畑中陽子
参加人数	8人

ユ. 声優にチャレンジしよう!!

開催日	3月26日
会場	Tree HALL
開催回数	全1回
内容他	絵本が好きな方、声優に興味のある小学生親子を対象に、親子で絵本の読み聞かせやボイスドラマに挑戦した。
講師	森田 樹優
参加人数	26人

② 成人事業(人権)

ア. ハンセン病問題から憲法を考えてみませんか

開催日	2月12日
会場	多摩平交流センター
開催回数	全1回
内容他	ハンセン病問題の歴史を紐解き、この問題の何が憲法の精神に反するかを参加者同士で考えるワークショップ。
講師	相川 翼
参加人数	25人

イ. パートナシップ制度に向けて、ありのままの自分とは

開催日	3月12日
会場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	多様な性、多様な生き方を認める人権尊重の意識づくりや理解の促進について学ぶ。
講師	小野 春
参加人数	7人

ウ. 絵本から読み解く 憲法があなたへ託したメッセージ

開催日	3月13日
会場	多摩平交流センター
開催回数	全1回

内容他	絵本のなかに、私たちの暮らしの土台である憲法のエッセンスを感じ取ってもらい、専門性の高い憲法を読み聞かせとワークショップで楽しく学んだ。
講師	山崎 翠
参加人数	9人

③ 成人委託事業

ア. 外国人のための日本語教室<委託事業>

地域の中で外国人が生活していくために、必要な日本語を学ぶ場として始まった事業。市内に住む外国人同士や外国人と日本人の交流を通して相互理解を深め、異文化共生を実践する場となっている。

ア) 委託先 日野国際友好クラブ

イ) 委託料 400,000円

ウ) 委託期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

エ) クラス 日本語能力レベルが同程度の学習者ごとに編成。一人の教師が1～3人の学習者を受け持つ。

コース		水曜日(午前)	水曜日(夜間)	金曜日(夜間)
時間		午前10時～正午	午後7時～9時	午後7時～9時
会場		オンライン開催 12月・1月は会場	オンライン開催 12月・1月は会場	オンライン開催 12月・1月は会場
回数		全36回	全36回	全36回
参加 延べ 人数	学習者	265人	175人	732人
	ボラン ティア	251人	181人	508人

940人(学習者) 1,172人(ボランティア)

オ) 教材

「みんなの日本語 初級Ⅰ、Ⅱ」、「いっぽ にほんご さんぽ」、補助教材として絵カードや聴解CD、市販のテキスト、新聞など

イ. 田んぼの学校<委託事業>

農体験、その他の活動を通じて、自然に親しみ、そこで暮らす生物との繋がり、得られた大地の恵みを楽しみながら、生きる・学ぶ・触れ合う・育てる力を学ぶとともに、環境問題も含め、自然と人との共存、人と人との関わり・繋がり場としている。

ア) 委託先 田んぼの学校運営委員会 代表 斉藤 守

イ) 委託料 224,000円

ウ) 委託期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

エ) 内容ほか

会場	新町会場・南平会場・中央公民館
内容他	種まきから刈り取りまで、季節を通して水田にかかわり、米作りの楽しさと自然の厳しさを学んだ。 今年度は、収穫祭(餅つき等)が出来なかったため、収穫したお米(もち米)は参加者に配付した。
講師	福島 久夫、和田 菊代、水口 均、高橋 博
参加人数	新町延べ参加人数 261人、南平延べ参加人数 326人 全19回 587人

ウ. 公民館平和事業<委託事業>

日野市は8月を平和月間としている。終戦から75年以上が経ち、戦争体験者が少なくなる中、戦争の悲惨さや平和の尊さについて参加者が改めて考える場を提供することができた。また、SDGsカードゲームを実施することで若者にも参加してもらう機会を設けた。

ア) 委託先 公民館平和事業実行委員会 代表 多胡 敬一郎

イ) 委託料 90,000円

ウ) 委託期間 令和3年8月2日～令和4年3月31日

エ) 内容ほか

会 場	多摩平の森ふれあい館
開催日	8月22日、3月12日～3月15日
内容他	毎年8月に公民館平和事業を開催。市民の実行委員会を主体に、様々な世代の市民が様々な表現を通じて、戦争を次の世代に語り継ぐ、平和について考える場とする。3月には4課協働による日野市春の平和展を開催した。
講師・出演	富田 直子、中村 静江、公民館朗読サークル ほか
来場者数	180人

エ. シニアICT支援事業<委託事業>

デジタルトランスフォーメーション（DX）が進行する中で、高齢者のデジタルデバインドが深刻化している。スマートフォンの使い方を学ぶ講座やスマートフォンを教える立場の講師を養成する講座を展開し、学びの観点から高齢者を取り残さない地域福祉を推進する。当事業は市高齢福祉課や地域協働課との連携事業とする。

ア) 委託先 日野市社会福祉協議会

イ) 委託料 2,200,000円

ウ) 委託期間 令和3年5月12日～令和4年3月31日

エ) 内容ほか

A. スマートフォン使い方講座

会場	中央福祉センター、多摩平交流センターほか
開催日	①7月2日～11月30日（全10回）
内容他	スマートフォンに不慣れな市内在住の高齢者を対象とし、電話のかけ方やアプリのインストール方法、電子決済サービスの使用方法などを学ぶ。
講 師	①株式会社アミュー
参加人数	①269人

B. スマホお助け隊養成講座

会 場	中央福祉センター
日時	7月21日～8月18日（全4回）
内容他	スマートフォンの使い方を教える市民の養成講座。講座修了後は各地域での使い方講座のサポートや個別相談会で活躍。
講 師	株式会社アミュー
参加人数	延べ122人

C. Zoom講座

会場	中央福祉センター
日時	5月17日～2月22日（全21回）
内容他	Zoom等のスマートフォンを活用したオンラインコミュニケーションの基本的な知識を学ぶ入門講座。
講師	日野市ボランティアセンター
参加人数	延べ321人

D. スマートフォン活用の啓発講座

会場	中央福祉センター
日時	12月20日～3月14日（全3回）
内容他	スマートフォン活用にあたり、スマートフォンの種類の差異や使用時の注意点、コツなどを学ぶ。
講師	日野市ボランティアセンター
参加人数	延べ49人

オ. シニアICT支援事業（スマホ使い方講座追加分）＜委託事業＞

デジタルトランスフォーメーション（DX）が進行する中で、高齢者のデジタルデバイドが深刻化している。スマートフォンの使い方を学ぶ講座やスマートフォンを教える立場の講師を養成する講座を展開する。当事業は市高齢福祉課や地域協働課との連携事業とする。

- ア) 委託先 株式会社YCC
- イ) 委託料 418,000円
- ウ) 委託期間 令和3年7月8日～7月31日
- エ) 内容ほか

会場	福祉支援センター
開催日	7月19日～7月25日（全4回）
内容他	スマートフォンに不慣れな市内在住の高齢者を対象とし、電話のかけ方やアプリのインストール方法、電子決済サービスの使用方法などを学ぶ。
講師	株式会社YCC
参加人数	106人

④ 高齢者事業

ア. 程久保うたごえパーク

開催日	6月12日～3月12日
会場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全6回
内容他	皆で集い楽器の伴奏に合わせて大きな声で歌うことで、家にこもりがちの方がストレス解消・リフレッシュをするとともに、仲間づくり・生きがいづくりの場を提供した。
講師	アンサンブル「ジュビア」

参加 延べ人数	52人
------------	-----

イ. 朗読サロン

開催日	7月16日～12月10日
会 場	多摩平交流センター、ほか
開催回数	全4回
内容他	公民館で活動をしている朗読サークルへ“発表の場を提供する”ことと同時に、小さな文字を読むのが段々と敬遠しがちな高齢者を対象に、名作を朗読で楽しんでもらい、参加者同士の交流を図ることができた。
講 師	朗読の会「うづき」、日野にじの会、のんど会、蘭陀夢
参加 延べ人数	64人

ウ. 可燃ごみ処理施設を見学しよう！

開催日	2月24日
会 場	浅川清流環境組合 可燃ごみ処理施設
開催回数	全1回
内容他	地域になくってはならない施設であるが、迷惑施設ともいわれている。市民の方に施設を見学していただき、理解を深めてもらう機会を作った。
講 師	浅川清流環境組合職員
参加人数	中止

⑤ 公民館映画

名画と呼ばれる作品を取り上げて上映し、その時代背景、製作過程、監督、俳優などについて考察する。

上映会場は中央公民館1回、高幡台団地集会所1回、ひの児童館1回。

開催日	作 品	監 督	出 演	参加人数
2月19日 (中央公民館)	砂の器	野村 芳太郎	丹波哲郎ほか	27
3月19日 (高幡台団地 集会所)	最高の人生の 見つけ方	犬童 一心	吉永小百合ほか	19
3月25日 (ひの児童館)	怪盗グルーの ミニオン大脱走	ピエール・ コフィン	(声)笑福亭鶴瓶ほ か	24

⑥ 青少年事業

ア. 子ども将棋指導対局

開催日	4月～翌3月末の第2、第4水曜日（予定33回）
会 場	中央公民館
開催回数	全8回 【他の期間は新型コロナウイルス感染拡大により中止】
内容他	公民館で活動している日野市将棋サークルの活動日に合わせ、子どもたちを呼び込んで、大人と子どもの将棋対局を実施。サークルの活性化と合わせ年配者と子どもの融合が始まった。
講 師	公民館登録サークル「日野市将棋サークル」

参加 延べ人数	115人
------------	------

イ. 勉強ルーム in 公民館

開催日	4月1日～ 夜間（午後6時から午後8時まで）
会 場	中央公民館
開催回数	開館日
内容他	生徒の学習の場の提供。自宅などで学習場所の確保が難しい生徒や、友達と気軽に学習する場所として実施。
講師	中央公民館職員
参加 延べ人数	15人

ウ. ウクライナ イースターエッグピサンカづくり講座

開催日	6月12日
会 場	日野市市民の森ふれあいホール
開催回数	全1回
内容他	東京オリンピックにて日野市がホストタウンとなったウクライナについて学びながら、ウクライナの伝統的な民芸品であるピサンカをつくる講座。
講 師	ヴィオレッタ・ウドヴィク、インナ・イリナ
参加人数	【新型コロナウイルス感染症拡大により中止】

エ. 公民館まんがクラブ～つけペンでまんがを描こう！～
入門編・キャラクターイラスト

開催日	6月13日・6月27日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	漫画家が実際に使っている道具を使用し、キャラクターイラストを描きながら子ども同士の交流を行った。
講師	大瀧 めぐみ
参加 延べ人数	16人

オ. 夏休み子どもカーデザイン教室

開催日	8月4日
会 場	日野自動車(株)デザインセンター
開催回数	全1回
内容他	日野自動車(株)デザイン部の本物のプロのデザイナーが、子どもたちにデザインの基礎や物づくりの楽しさ、実際に自分がデザインした車を粘土でつくるまで行う。
講師	日野自動車(株)デザイン部
参加人数	中止

カ. 楽しみながら学ぶプログラミング (Scratch)

開催日	8月4日・8月5日・8月6日
会場	中央公民館
開催回数	全3回
内容他	Scratchを使い、IT教育の入り口として楽しみながら学ぶことに主眼を置いた。プログラミングを基礎から学び、各種ゲームを作成した。
講師	矢ヶ崎 敏明
参加 延べ人数	30人

キ. 夏休み小学生集まれ！！「わくわく学習術」

開催日	8月20日、21日
会場	中央公民館高幡台分室、教育センター体育館
開催回数	全4回
内容他	小学校高学年を対象に学校の授業とは異なった視点で楽しみながら学んでもらう事を目的として実施した。協調性・体力・芸術性・勉強以外の可能性などを考慮して内容を検討した。
講師	日野市スポーツ推進委員、中村由紀子、連合東京金属部門連絡会
参加 延べ人数	48人

ク. ～みんなで空を見上げよう！～親子で楽しむお天気講座

開催日	8月28日
会場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	身近なサイエンスの「お天気」のクイズや実験を通して、自然の不思議さ、すばらしさを感じてもらう講座。生活に役立つ防災知識、多発する気象災害に対する心構えのお話を伺った。
講師	島田 賀子
参加人数	15人

ケ. おおきな紙に森を描こう！

開催日	10月3日
会場	中央公民館中庭
開催回数	全1回
内容他	大きな紙に参加者それぞれが思い浮かべる秋を描いた。公民館中庭で行ったことで、子どもが駆け回りながら行えた。
講師	大瀧 めぐみ
参加人数	10人

コ. 中央公民館×日野第六小学校「星空講座」

開催日	12月1日・12月2日
会場	日野第六小学校
開催回数	全2回

内容他	日野第六小学校との連携講座。6年生は講座後に日光移動教室が控えていたこともあり、日光での星空の様子を、4年生は単元の関係で星に関する内容を講師が第六小学校付近での星空の見え方などを子どもたちに伝えていた。
講師	村山 孝一
参加 延べ人数	230人

サ。「ゆめもぐ広場」キミの想いをカタチにしよう！

開催日	12月8日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全1回
内容他	もぐさだい児童館、夢が丘小学童クラブとの共催で、平日の午後、分室の一部屋を使って、木の実を使った工作を作った。
講師	なし
参加人数	7人

シ. 冬休み書初め講座

開催日	12月25日・12月26日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	仲間と一緒に書くことによって集中できる環境を作り、書家の指導を受け、書初めをきれいに書くコツやバランスを学びました。
講師	柴田 雪香
参加 延べ人数	30人

ス. 出張公民「観」in高幡台団地 ワンにゃん大行進講座

開催日	3月19日
会 場	高幡台団地旧73号棟前
開催回数	全1回
内容他	地域の方を講師に招き、子ども達に簡単な木工工作を体験する場を提供した。
講師	小林 朝七
参加人数	30人

⑦ 青少年委託事業

第15回ひのっ子シェフコンテスト

ア 事業の目的

子どもが食べることや食材の大切さを感じることで、食への関心を高め、心身共に健康な子どもを育てることを目的とする。また、これに伴い多くの市民にも食の大切さを伝える。

イ 事業の概要

子どもによる料理コンテストを実施し、入賞、特別賞を決定した。

【対象】市内の小学校に通う小学4年生から6年生の個人若しくはグループ

【料理の条件】日野産野菜を活用（旬の食材）したメニューを、90分以内で4人分を調理する。（予算1,000円以内）

- 【審査方法】 ア) 地場野菜（日野産）の活用
 イ) オリジナリティ（アイデアや工夫）
 ウ) 給食にふさわしいか
 エ) 味
 オ) 見た目
 カ) 手際の良さ
- 【審査員】 ・審査委員長 鈴木 章生（服部栄養専門学校教授）
 ・ひのっ子シェフコンテスト実行委員会委員長
 白尾 美佳（実践女子大学教授）
 ・日野市長 大坪 冬彦
 ・日野市教育員会委員 東 桜子
- 【運営】 ひのっ子シェフコンテスト実行委員会に委託（事業の企画・運営）して行う。

ウ 事業の成果

本選実施日 11月28日（日）
 会場 = 教育センター体育館
 応募数 = 27チーム（43人）
 本選出場数 = 5チーム（7人）
 周知方法 = 7月に案内を市内小学校へ配布
 コンテスト結果

- 【入賞】・うまい！！まんまるりんごぎょうざ
 ・多摩川梨とたるトマトの肉じゃが
 ・心があたたまる、ほうとう風にかみうどん
 ・食わずぎらいはやめようね。味そのご飯いため
 ・たくあんとはくさいのダブル食感サラダ
- 【栄養士・調理員が選んだ特別賞】
 ・心があたたまる、ほうとう風にかみうどん

エ 令和3年度の取り組み

- ア) 会場を第一中学校から教育センター体育館とした。
 イ) 調理による本選は行わず、児童の家庭で準備や調理の様子を記録し、その内容を児童がプレゼン発表した。
 ウ) 全チーム入賞とし、「栄養士と調理員が選んだ特別賞メニュー」を設けた。
 エ) 給食調理員による給食パネル展を行った。

⑧ ひの市民大学

講座の企画・運営の検討から市民とともに「ひの市民大学」は、「いつでも どこでも だれもが学べる場」をキャッチフレーズに市民手作りによる大学として実施している。

ア. 日野で漁師！～浅川で副業！？鮎釣りを学ぶ～

開催日	6月5日・7月24日・9月4日・9月11日・10月17日
会場	平山交流センター・浅川ほか
開催回数	全5回
内容他	多摩川漁業協同組合と協働し、自然環境と鮎釣りについて学ぶ。
講師	多摩川漁業協同組合日野市支部
参加 延べ人数	25人

イ. ひかりであそぼう！

開催日	8月22日
会場	豊田南地区センター
開催回数	全2回
内容他	子どもの発想力を生かし、透明なシートに絵付けやセロハンを貼り合わせ、暗闇で光を当てることで浮かび上がる影を楽しむ講座。
講師	田中 令、松本 千花
参加 延べ人数	16人

ウ. 小森陽一先生と読み解く宮沢賢治『銀河鉄道の夜』

開催日	10月23日・11月12日・12月11日・1月8日
会場	中央福祉センター・平山交流センター、オンライン併用
開催回数	全4回
内容他	不朽の名作であり、その後様々な作品のモデルとなっている「銀河鉄道の夜」について、文学・科学等の目線から読み進める。
講師	小森 陽一
参加 延べ人数	193人

エ. 漱石の文学と感染症の時代

開催日	2月5日・3月5日
会場	中央福祉センター、オンライン併用
開催回数	全2回
内容他	夏目漱石の文学には、しばしばその時代流行した感染症が取り上げられている。感染症との関わり方や当世の様子をコロナ禍だからこそ捉え直す。
講師	小森 陽一
参加 延べ人数	101人

オ. 「ベストセラー翻訳者が案内する自分軸の旅」

～『世界を知る101の言葉』制作秘話とエール～

開催日	2月20日
会場	富士電機能力開発センター
開催回数	全1回
内容他	『世界を知る101の言葉』は150か国以上を取材した名ジャーナリストが、各国の価値観を「単語ひとつ」で表現した知的ガイドブック。第1部では、本書の翻訳をされた鹿田氏の講演会、第2部では鹿田氏も交えたグループディスカッションを行った。
講師	鹿田 昌美
参加人数	57人

カ. 動画クリエイター養成講座

開催日	3月11日
会場	中央公民館

開催回数	全1回
内容他	動画の企画・構成、撮影から編集までを学んだ。動画制作の基礎を習得するとともに、参加者自ら情報発信を行うきっかけづくりとなる講座を目指した。
講師	保坂 堅一
参加人数	8人

キ. 対話とアート 好きな本を語って、ブックカバーをつくろう！

開催日	3月21日
会場	多摩平交流センター
開催回数	全1回
内容他	他者との対話を取り入れたワークショップ。好きな本についてのグループ発表後、様々な画材を用いてその本のためのブックカバーを制作した。
講師	田中令、北原章広、松本千花、渡邊涼
参加人数	16人

ク. 出張公民「観」 in高幡台団地 公民館がやってくる！

村田弘氏率いるロックバンド「村田村F」の演奏講座

開催日	3月19日
会場	高幡台団地7 3号棟跡地/広場
開催回数	全1回
内容他	中央公民館高幡台分室で活動しているサークルを中心に、高幡台地区の方にもっと公民館を知ってもらいたい、利用してもらいたいという願いから公民館登録サークルが地域に出向いて活動の成果を発表。その一役を担いアートフェスティバルの参加常連団体から村田弘氏率いる「村田村F」の音楽講座を実施した。
講師	村田 弘
参加人数	30人

ケ. 浅川子どもビジネススクール

開催日	3月22日・3月23日・3月27日
会場	平山小学校、公社平山住宅内公園
開催回数	全3回
内容他	普段、子どもたちが学ぶ機会の少ない「お金」について、上手な付き合い方を学ぶ講座。市民講師からビジネスの基礎を教えていただき、実際に地域イベントに模擬店を出店することで、体験的にビジネスを学んだ。
講師	根津 美満子
参加延べ人数	26人

コ. ひの市民大学連携コース（委託事業） 連携：明星大学

心理学部オンライン講座

開催日	2月5日～3月5日
会場	オンライン講座のため、なし
開催回数	全5回

内容他	①私も今日からカウンセラー ②ウェルビーイングとカウンセリング ③不安と恐怖に対する応用行動分析的アプローチ ④スクールカウンセリングの実際 ⑤ストレスに対するセルフケアと対人支援-認知行動療法の視点から-
講師	①石井 雄吉②福田 憲明③竹内 康二④富田 新⑤藤井 靖
参加 延べ人数	312人

⑨ たま学びテラス広域連携事業(日野市・多摩市)

日野市・多摩市が共同し、市民の「学びの保障」を行うためのICT環境整備や、両市民がそれぞれの公民館が連携している大学講座に参加できる機会及び市民が学習成果を発信できる場を提供する。両市市民及び多摩地域住民への生涯学習支援を充実させるための「たま学びテラス」を構築する広域連携事業。

ア. オンライン市民大学連携 日野市「ひの市民大学」

ひの市民大学大学連携コース(委託)参照

イ. オンライン市民大学連携 多摩市「関戸地球大学院」

開催日	11月18日～12月19日
会場	関戸公民館ヴィータホール、オンライン併用
開催回数	全6回
内容他	①十種競技から学ぶ ～競技と向き合い、成長し続ける事の大切さ～ ②対話型鑑賞の功罪～美術の多様な楽しみ～ ③老年学からみた健康長寿の秘訣 ④からだを動かし、地球を動かす～高齢期の健康増進『介護予防』のはなし～ ⑤コロナ禍とリニア中央新幹線の再考～環境を犠牲にした高速移動社会は必要か～ ⑥わが国における ESG の現調と課題
講師	①右代 啓佑②森 功次③鈴木 隆雄④小島 基永⑤上村 英明 ⑥落合 孝彦
参加 延べ人数	230名(うち日野市民:29名)

ウ. 動画づくりのはじめの一步

開催日	1月25日～3月8日
会場	中央公民館・オンライン
開催回数	全4回
内容他	動画による情報発信が隆盛する昨今、動画づくりに対して親しみを持つことを目的に、動画編集等について学ぶ講座。
講師	野上 五十満、株式会社YCC
参加 延べ人数	36人

エ. 川崎街道今昔クエスト

開催日	2月9日～3月9日
会場	聖蹟桜ヶ丘駅～高幡不動駅ほか
開催回数	全4回【新型コロナウイルス感染症対策により3回中止】

内容他	市内高幡、百草地域と、多摩市一ノ宮、和田地域は市境ではあるが過去、現在も生活圏は重なっていると思われる。そこで、両市を通る川崎街道を時間軸に捉え、様々な出来事や過去と今の生活の同異などを知ることが目的とする。
講師	金野 啓史
参加 延べ人数	8人

オ. 多世代交流イベント「大学生と一緒にSDGsカードゲーム」

開催日	3月12日
会場	多摩平交流センター
開催回数	全1回
内容他	帝京大学生島ゼミ生と協働し、「SDGsカードゲーム」による多世代交流を行う。
講師	(有)ウィルウィンド
参加人数	18人

⑩ 公民館アウトリーチ事業

ア. 一中地区モデル事業

蚕でつなぐプロジェクト ～一緒に蚕のこと学びませんか～

開催日	5月15日、5月22日、5月29日
会場	中央公民館、仲田の森蚕糸公園
開催回数	全3回
内容他	日野本町の地域資源を活かし、地域で活動している蚕糸の会・日野の協力の下、桑と蚕を学んだ。
講師	蚕糸の会・日野
参加 延べ人数	80人

イ. 一中地区モデル事業

蚕でつなぐプロジェクト ～一緒に蚕のこと学びませんかVer. 2～

開催日	9月25日、10月16日
会場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	蚕糸試験場が稼働していたころの働いていた方から、当時の貴重な体験談や海外技術支援を行っていたことなどを学んだ。今年卵から飼育し「繭」になったものを使い、糸取り体験を行った。
講師	柳元 太郎 大井 秀夫 山川 一弘
参加 延べ人数	56人

ウ. 一中地区モデル事業

蚕でつなぐプロジェクト ～一緒に蚕のこと学びませんかVer. 3～

開催日	2月19日
会場	仲田の森蚕糸公園内 第一蚕室
開催回数	全1回

内容他	仲田の森蚕糸公園内にある第一蚕室(桑ハウス)で初めて講座を行い、仲田の森周辺が昭和時代からの移り変わっていく風景や、蚕糸試験場日野桑園を見学しながら学んだ。
講師	蚕糸の会・日野
参加人数	22人

エ. 出張公民「観」in高幡台団地

開催日	3月19日
会場	高幡台団地旧73号棟前広場
開催回数	全1回
内容他	市内高幡台団地の一角をお借りして、公民館の活動を市民の皆さんにもっと知ってもらい、利用してもらいたいとの願いから、分室で活動しているサークルの作品展示や販売、音楽等を披露した。
講師	公民館登録サークルほか
参加人数	250人

オ. 二中地区モデル事業

楽しいプログラミング

開催日	3月25日・3月26日
会場	UR多摩平の森 さくら集会所
開催回数	全2回
内容他	親や低学年の子どものプログラミング講座を希望する前回アンケートを参考に、親子参加の講座を行った。子ども達が興味を持てるよう工夫した、音楽や算数のプログラミング作りは好評だった。
講師	矢ヶ崎 敏明
参加延べ人数	30人

⑪ 居場所づくり

ア. 居場所こむこむ

開催日	4月22日～3月17日までの毎月第3木曜日。5月～9月は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。
会場	中央公民館
開催回数	全7回
内容他	公民館サークルの子育て世代の方から、「子どもの居場所づくり」を行いたいとの申し出を受け、実現した。子どもたちの憩いの場として、宿題を見たり、一緒に遊ぶ時間。
講師	こどもへのまなざしママ会、サークルどーなつ
参加延べ人数	215人

イ. 日野市公民館運営審議会提供「子どものための居場所づくり講座」

開催日	12月11日
会場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	日野市公民館運営審議会の提供により、市内で子どもの居場所づくりを行う団体からその理念と実践を学ぶ講座を実施。

講師	NPO法人子どもへのまなざし、日野すみれ塾、ひの社会教育センター（子育て応援施設 モグモグ）、日野市社会福祉協議会・日野市ボランティアセンター
参加人数	39人

⑫ 企業連携

ア. 明治安田生命保険相互会社「わたしの家族と「そうぞく」講座」

開催日	1月8日・1月26日・2月26日
会場	中央公民館
開催回数	全3回
内容他	日野市と包括協定を結んだ明治安田生命保険相互会社による相続についての連続講座。
講師	明治安田生命保険相互会社
参加 延べ人数	40人

イ. ～いつまでも若く美しく～女性のための健康づくり

開催日	1月27日・2月3日
会場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全2回
内容他	いつまでも若々しく、老化を防いで身体の中から健康に。 ●肌老化を防ぐために欠かせない抗酸化と高糖化とは？ ●野菜が持つ抗酸化力と、高糖化の仕組み・食べ方を紹介 ●みかけの年齢チェック実施
講師	明治安田生命派遣職員
参加 延べ人数	12人

⑬ 障害者事業

ア. 少年学級 <委託事業>

市内の特別支援教育を受けている小・中学生を対象に、月一回定例会を実施し、ボランティアと一緒に遊び、学んでいる。また、第1土曜日（年8回）には、リトミック教室を開催。運営は、「日野市少年学級親の会」。

ボランティアは、近隣大学のボランティアサークルが中心となり、活動に参加している。（新型コロナウイルス感染症対策により、オンライン例会として参加している。）

ア) 委託先 日野市少年学級親の会 会長 阿部 裕仁

イ) 委託料 713,328円

ウ) 運営 日野市少年学級親の会
会長 阿部 裕仁
副会長 五十川 真紀 清川 宏美
会計 高辻 あき子 佐藤 幸子
書記 黒田 美穂
会計監査 服部 有喜子

エ) リトミック教室活動内容

開催日	4月4日～3月6日 午前9時45分～午前11時45分
会場	中央公民館
開催回数	全8回 うち1回は新型コロナウイルス感染症対策により中止
講師	山崎 詩奈子

参加人数	延べ84人
------	-------

オ) 定例会活動内容

月 日	内 容	会 場	参加人数
4月18日	こあらんど (中止)	中央公民館高幡台分室	-
4月18日	ボランティアとのオンライン例会	各家庭	35
4月27日	総会 (中止)	中央公民館	-
5月9日	開級式 (中止)	中央公民館高幡台分室	-
5月9日	ボランティアとのオンライン交流会	各家庭	38
5月9日	オンライン開級式	各家庭	24
6月13日	ウォーキングサッカー	ふれあいホール	1
7月9日	保護者親睦交流会	中央公民館	11
8月22日	ボランティアとのオンライン例会	各家庭	40
9月12日	ボウリング (中止)	立川スターレーン	-
10月10日	工作例会 (陶芸) (中止)	中央公民館高幡台分室	-
10月10日	ボランティアとのオンライン例会	各家庭	24
11月21日	サッカー教室	中央公民館高幡台分室	22
12月12日	クリスマス会	中央公民館高幡台分室	45
2月13日	ボランティアとのオンライン例会	各家庭	21
3月26日	バスハイク (中止)	東京スカイツリー 隅田川水上バス	-

10回 延べ273人

イ. 青年・成人学級 <委託事業>

青年・成人学級は「健康な青年と触れ合う場所が欲しい」という障害を持った青年達の願いを実現するために、昭和50年に「日野市障害者青年学級」として誕生した。スローガンとして「ともに生き、ともに学ぶ」を掲げ、地域に根ざした活動を続け、現在に至る。

この学級の特色は、16歳以上の障害を持つ青年も持たない青年も一緒になって、自分達の学級の企画・運営を行っている点にある。現在さまざまな障害を持った青年達と学生や社会人など多彩な青年達が、定例会と分科会に参加し活動している。

平成5年度から地域で生活する成人期の障害者を対象に、衣食住働などを学習する分科会「生活を考える」が始まり、平成9年度には成人講座として交流中心の青年学級とは別に活動するようになる。対象は25歳以上の希望者で、地域での生活についてさまざまな問題を学習する場を提供し、生き生きと暮らす力を学ぶことを意識してプログラムを組んでいる。平成12年度より、成人講座から成人学級へ変更し、平成28年度から団体名も新しく「日野市青年・成人学級」となり、積極的な活動を続けている。

ア) 委託先 日野市障害者青年・成人学級仲間の会 代表 木村 美子

イ) 委託料 900,000円

ウ) 運 営 青年・成人学級運営委員会役員
青年学級担当 運営委員長 樋口 洋平
会 計 小田 俊介
成人学級担当 熊谷 亜由美

各学級の各定例会の前に運営委員会を開き、企画・準備を行った。

エ) 青年学級定例会活動内容

開催日	内 容	会 場	参加人数
8月23日	暑中見舞い	中央公民館	80
9月19日	往復はがきを用いた組み合わせ絵の工作（公民館まつり展示部門において、11月27日～12月10日の間談話室展示）	中央公民館	55
10月17日	開級式	中央公民館	37
11月21日	遠足	両国・お台場	42
12月19日	クリスマス会	中央公民館	54
1月16日	新春お楽しみ会（SI0ライブ）	中央公民館	32
3月20日	修了証作成・送付	中央公民館	30

7回 延べ330人

オ) 成人学級活動内容

開催日	内 容	会 場	参加人数
10月17日	開級式	中央公民館	8
11月14日	社会見学	昭和記念公園	11
12月19日	クリスマス会	中央公民館	8
1月16日	新春お楽しみ会（SI0ライブ）	中央公民館	8
3月20日	修了証作成・送付	中央公民館	7

5回 延べ42人

カ) 分科会活動内容

A. ワープロ

開催日	11月12日～3月25日までの第2・第4金曜日（4～9月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
会 場	中央公民館
開催回数	全8回
講師	栗原 亜希子 ほか
参加延べ人数	22人

B. 料理

開催日	12月4日（6～10月、1～2月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
講師	鈴木 直美
参加人数	8人

C. リズム体操

開催日	6月～3月 第4日曜日 午後1時30分～2時30分
会 場	新町交流センター
開催回数	全5回（6月～10月は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止）
講師	前田 致加子
参加延べ人数	56名

D. コーラス

開催日	6月～12月 第4土曜日 午後1時30分～2時30分
-----	----------------------------

会 場	中央公民館、市民会館小ホール
開催回数	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止
講師	樋口 周子
参加人数	—

E. パンづくり

開催日	6月～2月 毎月土曜日 午後1時30分～2時30分
会 場	多摩平の森ふれあい館
開催回数	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止
講師	—
参加人数	—

4 公民館利用状況

(1) 中央公民館

① 目的別利用数（年間）

公民館事業または中央公民館使用分		市民グループ（文化関係）		市民グループ（体育関係）		市役所関係		その他		合 計	
回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
521	4,006	2,134	12,156	45	407	12	57	0	0	2,712	16,626

※ 陶芸窯利用 20回 登録団体 5サークル

② 目的別利用数（月別）

月	公民館事業または中央公民館使用分		市民グループ（文化関係）		市民グループ（体育関係）		市役所関係		その他		合 計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
4	22	179	193	1,139	8	82	0	0	0	0	223	1,400
5	16	107	88	459	1	20	1	3	0	0	106	589
6	23	197	193	1,016	1	6	0	0	0	0	217	1,219
7	53	354	169	929	4	37	2	6	0	0	228	1,326
8	43	290	153	803	4	27	1	25	0	0	201	1,145
9	28	262	186	985	4	30	0	0	0	0	218	1,277
10	55	392	222	1,353	5	28	2	6	0	0	284	1,779
11	39	304	221	1,240	5	67	1	2	0	0	266	1,613
12	84	653	216	1,351	2	12	0	0	0	0	302	2,016
1	77	780	161	939	0	0	0	0	0	0	238	1,719
2	38	212	136	679	2	18	2	6	0	0	178	915
3	43	276	196	1,263	9	80	3	9	0	0	251	1,628
計	521	4,006	2,134	12,156	45	407	12	57	0	0	2,712	16,626

③ 部屋別利用率（月別）

月	区分	講座室 A	講座室 B	視聴覚室	調理実習室	小会議室	実習室	ホール	保育室
4	午前	52.0	48.0	56.0	28.0	32.0	60.0	56.0	24.0
	午後	52.0	56.0	60.0	12.0	28.0	68.0	52.0	16.0
	夜間	52.0	44.0	20.0	4.0	4.0	40.0	28.0	0.0
5	午前	41.7	45.8	41.7	0.0	20.8	62.5	33.3	20.8
	午後	16.7	12.5	45.8	0.0	16.7	58.3	25.0	0.0
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

月	区分	講座室 A	講座室 B	視聴覚室	調理 実習室	小会議室	実習室	ホール	保育室
6	午前	53.8	50.0	61.5	26.9	26.9	61.5	65.4	57.7
	午後	53.8	50.0	76.9	11.5	38.5	73.1	34.6	0.0
	夜間	23.1	19.2	7.7	0.0	3.8	26.9	11.5	0.0
7	午前	56.0	56.0	40.0	36.0	36.0	88.0	68.0	24.0
	午後	60.0	52.0	72.0	8.0	36.0	68.0	68.0	4.0
	夜間	24.0	20.0	12.0	0.0	0.0	44.0	36.0	4.0
8	午前	48.0	48.0	16.0	32.0	20.0	64.0	68.0	20.0
	午後	56.0	48.0	56.0	12.0	36.0	72.0	48.0	4.0
	夜間	32.0	24.0	12.0	8.0	4.0	28.0	48.0	0.0
9	午前	64.0	60.0	48.0	20.0	12.0	68.0	44.0	28.0
	午後	56.0	56.0	72.0	4.0	32.0	68.0	56.0	4.0
	夜間	36.0	32.0	24.0	0.0	0.0	32.0	56.0	0.0
10	午前	74.1	59.3	40.7	40.7	25.9	88.9	66.7	33.3
	午後	70.4	74.1	70.4	14.8	48.1	81.5	77.8	7.4
	夜間	29.6	29.6	25.9	0.0	7.4	29.6	55.6	0.0
11	午前	87.0	69.6	56.5	39.1	21.7	95.7	82.6	43.5
	午後	69.6	69.6	87.0	17.4	47.8	87.0	82.6	21.7
	夜間	21.7	21.7	4.3	0.0	4.3	69.6	56.5	0.0
12	午前	83.3	79.2	66.7	37.5	45.8	75.0	66.7	45.8
	午後	91.7	87.5	75.0	29.2	41.7	91.7	66.7	16.7
	夜間	62.5	50.0	37.5	8.3	16.7	33.3	50.0	0.0
1	午前	75.0	62.5	75.0	33.3	54.2	83.3	45.8	41.7
	午後	58.3	45.8	62.5	16.7	33.3	79.2	50.0	4.2
	夜間	37.5	37.5	8.3	0.0	8.3	25.0	50.0	4.2
2	午前	68.2	63.6	63.6	18.2	36.4	50.0	54.5	40.9
	午後	31.8	36.4	50.0	0.0	36.4	72.7	50.0	0.0
	夜間	18.2	18.2	4.5	0.0	0.0	31.8	63.6	0.0
3	午前	51.9	33.3	59.3	33.3	44.4	74.1	40.7	25.9
	午後	63.0	51.9	63.0	18.5	37.0	81.5	44.4	18.5
	夜間	37.0	33.3	25.9	0.0	0.0	37.0	48.1	7.4
年間 計	午前	64.8	57.8	53.7	30.0	32.4	75.3	59.6	34.8
	午後	58.9	55.4	68.3	12.5	37.3	77.7	56.4	8.4
	夜間	32.4	28.6	16.0	1.7	4.2	34.1	43.2	1.4

(使用日数/開館日数=%)

(2) 中央公民館高幡台分室

① 目的別利用数(年間)

公民館事業 または中央公民 館高幡台分室 使用分		市民グループ (文化関係)		市民グループ (体育関係)		市役所関係		その他		合 計	
回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
171	1,039	1,519	9,705	290	2,323	119	672	57	404	2,156	14,143

※陶芸窯利用 26回 登録団体 7サークル

② 目的別利用数（月別）

月	公民館事業 または中央公民館高幡台分室 使用分		市民グループ (文化関係)		市民グループ (体育関係)		市役所 関係		その他		合 計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
4	0	0	126	784	22	190	12	112	11	91	171	1,177
5	1	7	93	586	11	85	4	13	2	22	111	713
6	4	23	136	898	29	218	7	46	1	9	177	1,194
7	7	68	138	870	29	235	14	65	3	22	191	1,260
8	34	115	95	608	19	140	13	44	0	0	161	907
9	5	22	122	740	28	229	10	58	3	20	168	1,069
10	4	25	132	865	26	217	11	65	4	22	177	1,194
11	23	96	134	879	27	208	13	73	7	55	204	1,311
12	22	256	135	930	26	219	13	71	3	18	199	1,494
1	11	99	132	843	24	193	13	69	2	9	182	1,213
2	12	86	122	726	24	182	8	49	2	18	168	1,061
3	48	242	154	976	25	207	1	7	19	118	247	1,550
計	171	1,039	1,519	9,705	290	2,323	119	672	57	404	2,156	14,143

③ 部屋別利用率（月別）

月	区分	実習室	和室	講座室 1	講座室 2	講座室 3	講座室 4	講座室 5	講座室 6
4	午前	12.0	56.0	64.0	60.0	52.0	24.0	64.0	20.0
	午後	8.0	12.0	56.0	64.0	24.0	44.0	64.0	20.0
	夜間	0.0	4.0	8.0	4.0	20.0	4.0	0.0	0.0
5	午前	0.0	25.0	54.2	54.2	20.8	8.3	41.7	25.0
	午後	0.0	4.2	54.2	62.5	25.0	25.0	45.8	16.7
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	午前	3.8	65.4	69.2	65.4	53.8	30.8	65.4	11.5
	午後	0.0	7.7	57.7	65.4	23.1	46.2	76.9	23.1
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5	3.8	0.0	0.0
7	午前	8.0	60.0	80.0	48.0	52.0	36.0	64.0	28.0
	午後	4.0	28.0	64.0	68.0	28.0	44.0	80.0	32.0
	夜間	0.0	8.0	0.0	0.0	16.0	8.0	8.0	0.0
8	午前	12.0	56.0	76.0	40.0	28.0	28.0	56.0	48.0
	午後	4.0	24.0	60.0	44.0	20.0	40.0	52.0	40.0
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	0.0	0.0	0.0
9	午前	8.0	60.0	80.0	48.0	32.0	60.0	48.0	24.0
	午後	4.0	12.0	68.0	56.0	20.0	56.0	52.0	12.0
	夜間	0.0	0.0	4.0	0.0	8.0	8.0	8.0	4.0
10	午前	11.1	55.6	81.5	51.9	33.3	40.7	48.1	11.1
	午後	7.4	25.9	70.4	74.1	18.5	33.3	55.6	11.1
	夜間	0.0	11.1	0.0	0.0	7.4	3.7	3.7	0.0
11	午前	30.4	69.6	87.0	69.6	43.5	65.2	52.2	30.4
	午後	39.1	21.7	69.6	78.3	43.5	43.5	65.2	26.1
	夜間	4.3	4.3	4.3	0.0	26.1	8.7	4.3	0.0

12	午前	29.2	66.7	83.3	70.8	50.0	54.2	41.7	33.3
	午後	20.8	20.8	66.7	70.8	37.5	50.0	62.5	25.0
	夜間	0.0	20.8	8.3	0.0	12.5	4.2	0.0	0.0
1	午前	12.5	58.3	79.2	54.2	45.8	50.0	79.2	29.2
	午後	12.5	25.0	58.3	62.5	33.3	45.8	70.8	20.8
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	4.2	0.0	0.0
2	午前	4.5	59.1	72.7	68.2	59.1	31.8	68.2	27.3
	午後	9.1	13.6	63.6	77.3	36.4	45.5	77.3	22.7
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	22.7	0.0	4.5	0.0
3	午前	22.2	74.1	66.7	66.7	59.3	70.4	66.7	29.6
	午後	7.4	14.8	66.7	74.1	44.4	63.0	74.1	29.6
	夜間	7.4	3.7	11.1	14.8	18.5	14.8	11.1	7.4
年間計	午前	13.2	61.0	77.0	59.9	45.6	43.2	59.9	27.2
	午後	9.8	18.1	65.2	68.6	30.3	46.3	66.9	24.0
	夜間	1.0	4.5	3.1	1.7	14.6	5.2	3.5	1.0

(使用日数/開館日数=%)

5 公民館まつり

日頃、中央公民館を中心に活動している各団体・サークルが一年間の活動の成果を作品の展示、音楽鑑賞、舞台、模擬店や体験コーナーを通し、広く市民の皆さんに楽しんでいただいている公民館まつり。令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策として、公民館まつりと高幡台分室まつりの合同開催とした。

開催日	10月30日、31日 10月2日～3月25日 2月27日	展示部門・ステージ部門 展示部門 ステージ部門	延期 中止
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館談話室に展示（絵画、写真、陶芸ほか） ・オンラインイベント（中止） 		

主催 公民館まつり実行委員会

6 パネル・ショーケース展示状況

中央公民館の談話室内にあるパネル・ショーケースは、公民館を利用する自主グループ等が日頃の活動成果の作品を展示し、発表する場となっている。また、公民館を訪れる方々に対し、広く社会教育活動への関心を与えている。

展示団体・内容

楽しいデジカメクラブ（写真）、ひの切り絵サークル（切り絵）、きつつき会（木彫り）、アクリエ会（アクリル画）、仲田小学校PTA（絵封筒）、手編みの会ひつじ（あみもの）、中央公民館（アートかるた・ハロウィーン・つるし雛）

7 公民館保育室

昭和60年度に開設し、専用保育室による保育は平成3年度から始まる。対象は市内在住の1歳6カ月から就学前までの幼児で、公民館主催事業の参加者または年間保育登録をしているグループに保育援助をしている。

保護者が学習・活動をしている間、子どもたちは公民館保育者とともに保育室で過ごしている。年齢の違う子どもたちとの遊びの中で、思いやりや協力の心も生まれている。親

も子ども学ぶ機会として「親・保育者・職員」のコミュニケーションを図っている。

公民館保育室の利用状況

保育援助認定グループ

団体名	利用回数	利用延人数
おとなの手芸部(手芸)	19	59
はだかんぼう(調理)	22	66
ゆるゆる手作りの会(手芸)	2	5
いるか(子育て学習)	7	11
A C T(子育て学習)	18	25
子どもへのまなごしママ会(子育て学習)	10	15
N P(子育て学習)	1	1
ハモレレ(ウクレレ)	8	14
まめまま(調理)	1	1
あじさい(生け花)	3	3
外国人のための日本語教室(委託事業)	0	0
公民館保育付講座	5	10
計	96(回)	210(人)

※保育援助は事前申込制で、1歳6カ月から就学前まで

8 公民館だより

編集は市民委員の協力により行われている。公民館の活動や事業を紹介するとともに、地域への関心を高めていくことを目的としている。年4回発行。

A3サイズ2つ折り全4ページで、市内の主な公共施設等で配布している。

号 (発行日)	仕様	主な内容
第168号 (7.31)	A3判二つ折り 4ページカラー刷り 1,500部	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン講座 <li style="padding-left: 20px;">※日野シニアICT支援事業 ・新入職員紹介ほか ・田んぼの学校が開校しました! ・公民館平和事業に是非ご参加を ・みんなのいばしょ「こむこむ」をつくりました! ・コラム「ねこの足跡」ほか

<p>第169号 (10.31)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・たま学びテラス、はじまります！！ ※多摩市との協働事業の開始 ・サークルの仲間たち 陶芸サークル・土楽にインタビューしました！ ・スマートフォン使い方講座（後期）が始まります！ ※日野市シニアICT支援事業 ・第15回ひのっ子シェフコンテストを開催します！ ・公民館平和事業 ～私たちの平和の祈りを次の世代に伝えるために～（報告） ・コラム「ねこの足跡」ほか
<p>第170号 (1.31)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「出張公民『観』in高幡台団地」開催します ・サークルの仲間たち 日野囃子保存会 ・～公民館からのお知らせ～ たま学びテラス第2弾！ 明星大学心理学部オンライン講座 ・公民館まつり展示部門開催中！ ・第15回ひのっ子シェフコンテスト開催！ ・コラム「ねこの足跡」ほか
<p>第171号 (3.31)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度中央公民館講座等事業のご紹介 ・サークルの仲間たち 日野市障害者青年・成人学級 ・令和4年度 田んぼの学校が始まります！！ ・日野市少年学級 ～学級生募集のお知らせ～ ・「出張公民『観』in高幡台団地」を開催しました ・コラム「ねこの足跡」ほか

○日野市中央公民館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日
制定

(目的)

第1条 この要綱は、社会教育法(昭和24年法律第207号)第32条に規定する、公民館の運営の状況に関する評価等の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市中央公民館(以下「公民館」という。)は、毎年1回、公民館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 公民館は、公民館運営審議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 公民館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 公民館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 公民館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、公民館管理係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、公民館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

第28期公民館運営審議会委員名簿

委員長	須崎 奈緒美	社会教育の関係者
副委員長	丹間 康仁	学識経験者
委員	畔上 栄輔	公募による市民
委員	樋口 周子	社会教育の関係者
委員	南雲 成二	学識経験者
委員	今尾 恵介	学識経験者
委員	松永 式子	学校教育の関係者
委員	藤枝 恵美	家庭教育の向上に資する活動を行う者
委員	斉野 美紀	公募による市民
委員	諸星 智子	社会教育の関係者
任期	自 令和2年7月 1日	
	至 令和4年6月30日	

第29期公民館運営審議会委員名簿

委員長	須崎 奈緒美	社会教育の関係者
副委員長	生島 美和	学識経験者
委員	今尾 恵介	学識経験者
委員	丹間 康仁	学識経験者
委員	松永 式子	学校教育の関係者
委員	斉野 美紀	社会教育の関係者
委員	諸星 智子	社会教育の関係者
委員	松川 紀子	家庭教育の向上に資する活動を行う者
委員	木戸場 美和	公募による市民
委員	中野 純平	公募による市民
任期	自 令和4年7月 1日	
	至 令和6年6月30日	

《参考》令和2年度 令和3年度 講座等参加人数

	令和2年度	令和3年度
成人・高齢者事業	3,364	4,375
一般成人、高齢者向け講座	1,046	1,426
バラエティサロン	19	0
公民館映画会	51	70
委託・公民館平和事業	287	180
委託・外国人のための日本語教室	1,463	2,112
委託・田んぼの学校	498	587
青少年事業	684	538
講座	636	501
委託・ひのっ子シェフコンテスト	48	37
ひの市民大学	872	746
講座	562	434
大学連携委託	310	312
障害者事業	852	815
委託・少年学級	459	357
委託・障害者青年・成人学級	393	458
イベント	100	0
公民館まつり	100	一部中止
たま学びテラス事業		91
たま学びテラス事業		91
シニアICT支援事業		867
シニアICT支援（スマホ講座）		867
明治安田生命連携事業		52
明治安田生命連携事業		52
居場所づくり	99	254
居場所づくり	99	254
公民館アウトリーチ事業	382	438
	382	438
総 計	6,353	8,176

令和4年度
日野市中央公民館の運営の状況に関する評価書
(令和3年度事業)

令和4年9月
日野市中央公民館

〒191-0011

東京都日野市日野本町七丁目5番地の23

電話 042-581-7580 F A X 042-581-2110